

(様式第 10)

獨医大病庶庶発第 42 号
令和 2 年 10 月 2 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人 獨協学園
理事長 吉田 謙

獨協医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和元年度の業務に関して報告します。
記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒340-0042 埼玉県草加市学園町1番1号
氏 名	学校法人 獨協学園

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

獨協医科大学病院

3 所在の場所

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林880 電話(0282)86-1111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

○1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1呼吸器内科 ○2消化器内科 ○3循環器内科 ○4腎臓内科	
5神経内科 6血液内科 7内分泌内科 8代謝内科	
9感染症内科 10アレルギー疾患内科またはアレルギー科 ○11リウマチ科	
診療実績	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ○1呼吸器外科 2消化器外科 ○3乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ○6心臓血管外科 7内分泌外科 ○8小児外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○1精神科 ○2小児科 ○3整形外科 ○4脳神経外科 ○5皮膚科 ○6泌尿器科 ○7産婦人科 8産科 9婦人科 ○10眼科 11耳鼻咽喉科 ○12放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ○15麻酔科 ○16救急科
--

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 ○1小児歯科 ○2矯正歯科 ○3口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1心臓・血管内科 2血液・腫瘍内科 3内分泌代謝内科 4脳神経内科 5呼吸器・アレルギー科 6形成外科・美容外科 7頭頸部・耳鼻咽喉科 8リハビリテーション科 9病理診断科
--

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
42床	床	床	床	1,153床	1,195床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	633人	18.8人	651.8人	看護補助者	94人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	24人	0.5人	24.5人	理学療法士	36人	臨床検査技師	94人
薬 剤 師	82人	0.6人	82.6人	作業療法士	9人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	7人	その他	0人
助産師	46人	3.0人	49人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	960人	62.8人	1022.8人	臨床工学士	24人	医療社会事業従事者	13人
准看護師	1人	0.8人	1.8人	栄 養 士	0人	その他の技術員	47人
歯科衛生士	5人	2.6人	7.6人	歯科技工士	0人	事務職員	262人
管理栄養士	10人	0人	10人	診療放射線技師	72人	その他の職員	4人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	37人	眼科専門医	11人
外科専門医	40人	耳鼻咽喉科専門医	8人
精神科専門医	8人	放射線科専門医	11人
小児科専門医	15人	脳神経外科専門医	13人
皮膚科専門医	8人	整形外科専門医	12人
泌尿器科専門医	11人	麻酔科専門医	16人
産婦人科専門医	10人	救急科専門医	13人
		合 計	213人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (種市 洋) 任命年月日 令和2年4月1日

医療安全管理委員会委員
 (令和2年4月1日～令和4年3月31日)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	958.2人	18.9人	977.1人
1日当たり平均外来患者数	2121.7人	118.9人	2240.6人
1日当たり平均調剤数			3,136.4剤
必要医師数			226人
必要歯科医師数			9人
必要薬剤師数			40人
必要(准)看護師数			564人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備	概要		
集中治療室	1,181m ²	鉄筋 コンクリート	病床数	17床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] [移動式の場合]	床面積 台数	436m ² 台	病床数	34床	
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床積 共用する室名	54m ²			
化学検査室	288m ²		(主な設備)	化学・免疫化学複合自動分析装置、免疫自動分析装置、免疫血清自動分析装置、血液ガス分析装置、凝固・線溶自動分析装置等		
細菌検査室	108m ²		(主な設備)	真菌感染症検査分析装置、自動菌液分注装置、微生物同定感受性分析装置、血液培養装置等		
病理検査室	266m ²		(主な設備)	自動免疫染色装置、感染防止機能付クリオスタット顕微鏡写真撮影装置、密閉式自動固定包埋装置、自動染色装置、感染防止対策用切出し台、安全キャビネット、クリーンベンチ		
病理解剖室	80m ²		(主な設備)	感染防止対策用解剖台、医用写真撮影装置、高圧蒸気滅菌器、自動ホルマリン作成装置		
研究室	21,154m ²		(主な設備)	マルチモードプレートリーダー、4D MV-Assessmentシステム、次世代シークエンサーIon Protonシステム		
講義室	288m ²		室数	1室	収容定員	240人
図書室	5,894m ²		室数	1室	蔵書数	250,000冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	77.2%	逆紹介率	58.9%
算出根拠	A：紹介患者の数		21,913人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		19,208人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		3,288人
	D：初診の患者の数		32,624人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
十川 康広	上都賀総合病院 病院長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ 無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
菊池 不佐男	菊池法律事務所 弁護士		法律に関する識見を有する者	有・ 無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
飯島 一彦	下野新聞社 専務取締役		医療を受ける者の代表者	有・ 無	医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
美津島 隆	獨協医科大学 リハビリテーション科学 教授		医療に関する学識経験者	有 ・無	その他
久保田 一徳	獨協医科大学病院 放射線部教授		医療に関する学識経験者	有 ・無	その他

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有 ・無
委員の選定理由の公表の有無	有 ・無
公表の方法 ホームページにより公開 (https://www.dokkyomed.ac.jp/files/hosp-m/info/02954-006.pdf)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	光干渉断層法(OCT)を用いた冠動脈プラーク診断と冠血管形成術	取扱患者数	67人
当該医療技術の概要 光干渉断層法(OCT)を用いて冠動脈プラーク組織性状を診断し、治療法の選択を広げることが可能。			
医療技術名	血管内視鏡を用いたステント内血栓症、新生内膜、大動脈の観察	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 血管内視鏡を用いたステント内血栓症、新生内膜の観察や、大動脈プラークの観察を施行し治療に役立てている。			
医療技術名	血管内超音波IVUSを用いた冠動脈形成術	取扱患者数	437人
当該医療技術の概要 冠動脈形成術の至適治療決定に必須なモダリティであり、下肢血管形成術にも使用している。			
医療技術名	冠血流予備能比(FFR)を用いた心筋虚血評価	取扱患者数	115人
当該医療技術の概要 冠血流予備能比(FFR)を用いた心筋虚血評価によって必要な症例にのみPCI治療を施行している。			
医療技術名	経カテーテル大動脈弁植え込み術(TAVI)	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 当院心臓血管外科とともに高齢大動脈弁狭窄症に対しTAVI施行している。			
医療技術名	MITRA	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 周防弁閉鎖不全症に対し適応に準じて経皮的僧帽弁形成術(Mitraclip)。			
医療技術名	内視鏡的胆管結石除去術	取扱患者数	155人
当該医療技術の概要 総胆管結石症に対して結石を除去するため行う内視鏡治療。			
医療技術名	肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 肝臓癌に対して超音波ガイド下に穿刺し電氣的に焼灼、壊死に至らしめる治療。			
医療技術名	炎症性腸疾患に対する血球成分除去療法	取扱患者数	24人
当該医療技術の概要 活動期潰瘍性大腸炎やクローン病患者に対する顆粒球や白血球成分除去療法。			
医療技術名	クローン病患者に対するバルーン小腸内視鏡	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 バルーン小腸内視鏡を用いてクローン病の診断や狭窄部治療、治療効果判定を行う。			
医療技術名	劇症肝炎に対する血液浄化療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 劇症肝炎患者に対して行う血漿交換や血液濾過透析療法。			

医療技術名	造血幹細胞移植	取扱患者数	10人
<p>該医療技術の概要</p> <p>難治性血液疾患に対して造血幹細胞移植による治癒を目指す。当院では血縁ドナー・非血縁ドナー(骨髄バンクおよび臍帯血バンク)からの同種移植・自家末梢血幹細胞移植とすべての幹細胞ソースからの移植に対応可能である。</p>			
医療技術名	経皮的血栓回収療法	取扱患者数	30人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>脳梗塞に対して施行している。</p>			
医療技術名	腸管内持続投与装置埋め込み術	取扱患者数	5人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>経口内服で対処不能なパーキンソン病に施行している。</p>			
医療技術名	肺及び胸腔におけるクライオバイオプシー	取扱患者数	25人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>経気管支鏡や経胸腔鏡下に先端が凍結する鉗子を挿入し標的組織を採取することで従来の生検鉗子と比較して病理検体のサイズや深さが大きい検体が採取出来るので病理診断率が上がる。</p>			
医療技術名	早期肺がんに対する気管支鏡下光線力学療法	取扱患者数	1人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>内視鏡的早期肺癌に対して、光感受性物質を静注後、気管支鏡下にレーザー照射を行うことで腫瘍を焼灼して治療を行う。</p>			
医療技術名	修正型電気けいれん療法	取扱患者数	361人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>難治性うつ病患者や難治性統合失調症患者に対して筋弛緩薬によって痙攣を抑制した状態でサイマトロンを用いて頭部にパルス波を入力する。</p>			
医療技術名	肺血流増加型先天性心疾患に対する低酸素療法	取扱患者数	2人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>肺血流増加型先天性心疾患に対して、手術までの待機期間に窒素を空気に混入させて低酸素療法を行う。</p>			
医療技術名	小児期発症の急性脳症に対する軽度脳低温療法とステロイドパルスの併用療法	取扱患者数	10人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>小児の急性脳症、けいれん重積に対する新しい治療法である。</p>			
医療技術名	経椎間孔到達法による硬膜外洗浄・癒着剥離術	取扱患者数	20人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>経仙骨裂孔到達法による硬膜外癒着剥離術を施行困難な症例に対して、X線透視下に責任病変直下の椎間孔到達法で神経ブロック針を刺入してカテーテルを挿入する。そのカテーテルを介して硬膜外腔腹側に薬液を注入して癒着剥離を実施する。</p>			
医療技術名	経皮的椎間板摘出術	取扱患者数	0人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>局所麻酔下に椎間板を透視下に穿刺して髄核を吸引する治療である。</p>			
医療技術名	肝切除	取扱患者数	95人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>肝細胞癌、転移性肝腫瘍、肝内胆管癌、肝門部領域胆管癌などの疾患に対して、肝垂区域切除や拡大肝切除を施行している。肝門部領域胆管癌などに対して大量肝切除が必要な場合は、術後肝不全予防として、門脈塞栓術を施行している。</p>			
医療技術名	臍頭十二指腸切除(肝切除付加)	取扱患者数	54人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>主に臍頭部癌、遠位部胆管癌、乳頭部癌、十二指腸癌などの疾患に対して施行している。門脈などの脈管侵襲を伴う場合も、血管合併切除や再建も施行している。また、広範囲胆管癌などに対しては、肝切除付加臍頭十二指腸切除も施行している。</p>			
医療技術名	膵体尾部切除	取扱患者数	23人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>主に膵体尾部癌に対して施行している。</p>			

医療技術名	膵全摘術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 主に膵臓癌、膵管内乳頭線癌などの疾患に対して施行している。			
医療技術名	腹腔鏡下肝切除	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 主に肝細胞癌、転移性肝腫瘍に対して、腹腔鏡下肝外側区域切除、部分切除を施行している。			
医療技術名	腹腔鏡下結腸切除	取扱患者数	48人
当該医療技術の概要 結腸癌に対して施行している。			
医療技術名	腹腔鏡下直腸切除	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要 直腸がんに対して施行している。			
医療技術名	進行直腸癌に対する術前化学放射線療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 本来は肛門を温存することが難しい下部直腸癌に対して術前に化学放射線療法を行うことによって、切除率を向上させるだけでなく、肛門温存率を向上させることが期待できる。			
医療技術名	側方郭清	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 下部直腸癌の側方郭清を腹腔鏡下で施行している。			
医療技術名	腹腔鏡下大腸全摘術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 炎症性腸疾患に対して施行している。			
医療技術名	植込み補助人工心臓	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 重症心不全患者に対する心移植までのブリッジ。			
医療技術名	経皮的補助人工心臓	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 経カテーテル補助人工心臓(Impella®)を用いて急性心不全に対する治療。			
医療技術名	急性B型大動脈解離に対するステント治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 急性B型大動脈解離に対してステントグラフト植込み。			
医療技術名	脳死肺移植	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 脳死ドナーより摘出・搬送した肺を登録してある慢性呼吸不全症例に移植したもの。			
医療技術名	重度脊柱変形に対する脊柱骨切り再建術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 先天性側弯症などの重度側弯症に対する前方後方合併脊柱骨切り術を併用した矯正固定術。			
医療技術名	肺癌に対する脊椎肺合併切除・脊柱再建術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 脊椎と肋骨に浸潤した肺癌に対して肺-脊椎-肋骨のen bloc切除と脊椎インストゥルメンテーションを用いた脊柱再建を行う。			

医療技術名	早期発症側弯症に対するグローイングロッド手術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要			
10歳未満の早期発症重度側弯症に対し、延長可能なロッドシステムを利用した経時的脊柱延長矯正術を行う。			
医療技術名	拡大前頭洞手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
通常の内視鏡手術では開放困難な前頭洞病変に対して用いられる手術手技である。			
医療技術名	下咽頭悪性腫瘍手術(頸部、胸部、腹部等の操作による再建を含む)	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要			
進行下咽頭癌に対して行われる耳鼻咽喉科を代表する大手術である。			
医療技術名	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
下咽頭の表在癌に対して消化器内科と合同で施行する上部消化管内視鏡下の切除術である。			
医療技術名	小耳症・外耳道閉鎖症における、耳介挙上と外耳道・鼓室形成による聴力改善	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要			
肋軟骨フレームワーク移植で作製した耳介を挙上する際に、外耳道の造設、耳小骨、鼓膜の再建を形成外科と耳鼻科が合同で行う。			
医療技術名	神経血管柄付き遊離筋肉移植による、顔面神経麻痺の動的再建手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
マイクロサージャリー手技を用いた、遊離筋肉移植(主に広背筋)により、陈旧性顔面神経麻痺患者に「笑いの表情」を再建する。			
医療技術名	膀胱水圧拡張術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要			
指定難病の間質性膀胱炎における診断兼治療となる経尿道的手術。			
医療技術名	接触式レーザー前立腺蒸散術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要			
前立腺肥大症におけるダイオードレーザーを用いた前立腺蒸散術。従来の術式に比べ術中の出血量が少ないと言われてい			
医療技術名	仙骨神経刺激装置植込術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
難治性過活動膀胱における手術手技。提供できる医療機関は本邦では限られている。			
医療技術名	人工尿道括約筋植込術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
男性の腹圧性尿失禁における手術手技。提供できる医療機関は本邦では限られている。			
医療技術名	腹腔鏡下仙骨腔固定術	取扱患者数	47人
当該医療技術の概要			
女性の骨盤臓器脱に対する腹腔鏡手術。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	2	56	ベーチェット病	90
2	筋萎縮性側索硬化症	36	57	特発性拡張型心筋症	95
3	脊髄性筋萎縮症	5	58	肥大型心筋症	12
4	原発性側索硬化症		59	拘束型心筋症	
5	進行性核上性麻痺	21	60	再生不良性貧血	38
6	パーキンソン病	345	61	自己免疫性溶血性貧血	4
7	大脳皮質基底核変性症	9	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	3
8	ハンチントン病	2	63	特発性血小板減少性紫斑病	70
9	神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病	
10	シャルコー・マリー・トゥース病	8	65	原発性免疫不全症候群	9
11	重症筋無力症	107	66	IgA腎症	20
12	先天性筋無力症候群	1	67	多発性嚢胞腎	20
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	80	68	黄色靱帯骨化症	6
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	22	69	後縦靱帯骨化症	61
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	6
16	クロー・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	41
17	多系統萎縮症	55	72	下垂体性ADH分泌異常症	15
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	64	73	下垂体性TSH分泌亢進症	2
19	ライソゾーム病	9	74	下垂体性PRL分泌亢進症	8
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	2
21	ミトコンドリア病	5	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	
22	もやもや病	26	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	29
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	97
24	亜急性硬化性全脳炎	3	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合)	
25	進行性多巣性白質脳症		80	甲状腺ホルモン不応症	
26	HTLV-1関連脊髄症		81	先天性副腎皮質酵素欠損症	3
27	特発性基底核石灰化症	1	82	先天性副腎低形成症	
28	全身性アミロイドーシス	3	83	アジソン病	2
29	ウルリッヒ病		84	サルコイドーシス	106
30	遠位型ミオパチー	1	85	特発性間質性肺炎	74
31	ベスレムミオパチー		86	肺動脈性肺高血圧症	31
32	自己貪食空胞性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	
33	シュワルツ・ヤンベル症候群		88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	28
34	神経線維腫症	33	89	リンパ脈管筋腫症	6
35	天疱瘡	19	90	網膜色素変性症	36
36	表皮水疱症	1	91	パッド・キアリ症候群	
37	膿疱性乾癬(汎発型)	10	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	2	93	原発性胆汁性肝硬変	17
39	中毒性表皮壊死症		94	原発性硬化性胆管炎	2
40	高安動脈炎	33	95	自己免疫性肝炎	7
41	巨細胞性動脈炎	12	96	クローン病	164
42	結節性多発動脈炎	4	97	潰瘍性大腸炎	359
43	顕微鏡的多発血管炎	50	98	好酸球性消化管疾患	13
44	多発血管炎性肉芽腫症	11	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	14	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ	4	101	腸管神経節細胞減少症	
47	パージャー病	6	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	8	103	CFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	290	104	コステロ症候群	
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	136	105	チャージ症候群	
51	全身性強皮症	167	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	44	107	全身型若年性特発性関節炎	
53	シェーグレン症候群	109	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人スチル病	18	109	非典型型溶血性尿毒症症候群	
55	再発性多発軟骨炎	6	110	フラウ症候群	

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	7	161	家族性良性慢性天疱瘡	
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	1	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	19
113	筋ジストロフィー	28	163	特発性後天性全身性無汗症	7
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群		164	眼皮膚白皮症	
115	遺伝性周期性四肢麻痺	2	165	肥厚性皮膚骨膜炎	
116	アトピー性脊髄炎		166	弾性線維性仮性黄色腫	
117	脊髄空洞症	4	167	マルファン症候群	5
118	脊髄髄膜瘤		168	エーラス・ダンロス症候群	1
119	アイザックス症候群	1	169	メンケス病	
120	遺伝性ジストニア		170	オクシピタル・ホーン症候群	
121	神経フェリチン症		171	ウィルソン病	4
122	脳表へモジデリン沈着症		172	低ホスファターゼ症	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症		173	VATER症候群	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症		174	那須・ハコラ病	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	1	175	ウィーバー症候群	
126	ペリー症候群		176	コフィン・ローリー症候群	
127	前頭側頭葉変性症	1	177	有馬症候群	
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎		178	モワット・ウィルソン症候群	
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症		179	ウィリアムズ症候群	
130	先天性無痛無汗症	1	180	ATR-X症候群	
131	アレキサンダー病		181	クルーゾン症候群	
132	先天性核上性球麻痺		182	アペール症候群	
133	メビウス症候群		183	ファイファー症候群	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	1	184	アントレー・ビクスラー症候群	
135	アイカルディ症候群		185	コフィン・シリス症候群	
136	片側巨脳症		186	ロスムンド・トムソン症候群	
137	限局性皮質異形成		187	歌舞伎症候群	
138	神経細胞移動異常症		188	多脾症候群	
139	先天性大脳白質形成不全症		189	無脾症候群	1
140	ドラベ症候群		190	鰓耳腎症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	1	191	ウェルナー症候群	
142	ミオクロニー欠伸てんかん		192	コケイン症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		193	ブラダー・ウィリ症候群	1
144	レノックス・ガストー症候群	2	194	ソトス症候群	
145	ウエスト症候群	1	195	ヌーナン症候群	
146	大田原症候群		196	ヤング・シンプソン症候群	
147	早期ミオクロニー脳症		197	1p36欠失症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		198	4p欠失症候群	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群		199	5p欠失症候群	
150	環状20番染色体症候群		200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151	ラスマッセン脳炎		201	アンジェルマン症候群	
152	PCDH19関連症候群		202	スミス・マギニス症候群	
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎		203	22q11.2欠失症候群	
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症		204	エマヌエル症候群	
155	ランドウ・クレフナー症候群		205	脆弱X症候群関連疾患	
156	レット症候群		206	脆弱X症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群		207	総動脈幹遺残症	
158	結節性硬化症	3	208	修正大血管転位症	
159	色素性乾皮症		209	完全大血管転位症	1
160	先天性魚鱗癬		210	単心室症	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群		259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症		260	シトステロール血症	2
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症		261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症		262	原発性高カイトミクロン血症	
215	ファロー四徴症		263	脳腫黄色腫症	
216	両大血管右室起始症		264	無βリボタンパク血症	
217	エプスタイン病		265	脂肪萎縮症	
218	アルポート症候群		266	家族性地中海熱	1
219	ギャロウェイ・モワト症候群		267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎	4	268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎		269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
222	一次性ネフローゼ症候群	22	270	慢性再発性多発性骨髄炎	
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	6
224	紫斑病性腎炎	2	272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症		273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	12	274	骨形成不全症	
227	オスラー病		275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎	2	276	軟骨無形成症	
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	277	リンパ管腫症/ゴーム病	1
230	肺胞低換気症候群		278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	α1-アンチトリプシン欠乏症		279	巨大静脈奇形(頸部口咽頭びまん性病変)	
232	カーニー複合		280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
233	ウォルフラム症候群		281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症	4	283	後天性赤芽球癆	4
236	偽性副甲状腺機能低下症		284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症		285	ファンコニ貧血	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症		286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症		287	エプスタイン症候群	1
240	フェニルケトン尿症		288	自己免疫性出血病XIII	1
241	高チロシン血症1型		289	クロンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	
243	高チロシン血症3型		291	ヒルシュスブルグ病(全結腸型又は小腸)	
244	メーブルシロップ尿症		292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症		293	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症		294	先天性横隔膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症		295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症		296	胆道閉鎖症	
249	グルタル酸血症1型		297	アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型		298	遺伝性膀胱炎	1
251	尿素サイクル異常症		299	嚢胞性線維症	1
252	リジン尿性蛋白不耐症		300	IgG4関連疾患	11
253	先天性葉酸吸収不全		301	黄斑ジストロフィー	
254	ボルフィリン症		302	レーベル遺伝性視神経症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症		303	アッシャー症候群	
256	筋型糖原病		304	若年発症型両側性感音難聴	1
257	肝型糖原病		305	遅発性内リンパ水腫	
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		306	好酸球性副鼻腔炎	133

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病		319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	
308	進行性白質脳症		320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	
309	進行性ミオクローヌステんかん		321	非ケトーシス型高グリシン血症	
310	先天異常症候群	1	322	β ーケトチオラーゼ欠損症	
311	先天性三尖弁狭窄症		323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312	先天性僧帽弁狭窄症		324	メチルグルタコン酸尿症	
313	先天性肺静脈狭窄症		325	遺伝性自己炎症疾患	
314	左肺動脈右肺動脈起始症		326	大理石骨病	
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)／ LMX1B関連腎症		327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	
316	カルニチン回路異常症		328	前眼部形成異常	
317	三頭酵素欠損症		329	無虹彩症	1
318	シトリン欠損症		330	先天性気管狭窄症	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
特定機能病院入院基本料 ・(一般病棟 7対1入院基本料)(精神病棟 13対1入院基本料)	・認知症ケア加算1
・救急医療管理加算	・精神疾患診療体制加算
・超急性期脳卒中加算	・精神科急性期医師配置加算2のイ
・診療録管理体制加算1	・排尿自立支援加算
・医師事務作業補助体制加算1(75対1補助体制加算)	救命救急入院料3 ・救急体制充実加算2
・急性期看護補助体制加算(50対1補助体制加算)	救命救急入院料4 ・救急体制充実加算2
・看護職員夜間配置加算(看護職員夜間12対1配置加算1)	特定集中治療室管理料3 ・小児加算
・療養環境加算	総合周産期特定集中治療室管理料 ・(母体・胎児集中治療室管理料)(新生児集中治療室管理料)
・重症者等療養環境特別加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・無菌治療室管理加算1	・小児入院医療管理料1 ・プレイルーム加算
・無菌治療室管理加算2	・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・緩和ケア診療加算	・歯科外来診療環境体制加算2
・精神科身体合併症管理加算	・歯科診療特別対応連携加算
・精神科リエゾンチーム加算	・入院時食事療養(I)
・摂食障害入院医療管理加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1 ・感染防止対策地域連携加算・抗菌薬適正使用支援加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・呼吸ケアチーム加算	・
・後発医薬品使用体制加算2	・
・データ提出加算(データ提出加算2のイ)	・
・入退院支援加算(入退院支援加算1のイ) ・入院時支援加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 糖尿病合併症管理料	・ HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 検体検査管理加算(Ⅰ)
・ がん患者指導管理料イ	・ 検体検査管理加算(Ⅳ)
・ がん患者指導管理料ロ	・ 国際標準検査管理加算
・ がん患者指導管理料ハ	・ 遺伝カウンセリング加算
・ 外来緩和ケア管理料	・ 胎児心エコー法
・ 移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・ ヘッドアップティルト試験
・ 糖尿病透析予防指導管理料	・ 長期継続頭蓋内脳波検査
・ 小児運動器疾患指導管理料	・ 脳波検査判断料1
・ 外来放射線照射診療料	・ 神経学的検査
・ ニコチン依存症管理料	・ 補聴器適合検査
・ がん治療連携計画策定料	・ ロービジョン検査判断料
・ 肝炎インターフェロン治療計画料	・ コンタクトレンズ検査料1
・ 外来排尿自立指導料	・ 小児食物アレルギー負荷検査
・ ハイリスク妊産婦連携指導料1	・ 内服・点滴誘発試験
・ ハイリスク妊産婦連携指導料2	・ 画像診断管理加算1
・ 薬剤管理指導料	・ ポジトロン断層撮影
・ 医療機器安全管理料1	・ ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・ 医療機器安全管理料2	・ CT撮影及びMRI撮影

<ul style="list-style-type: none"> 在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2 	<ul style="list-style-type: none"> 冠動脈CT撮影加算
<ul style="list-style-type: none"> 在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料 	<ul style="list-style-type: none"> 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
<ul style="list-style-type: none"> 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料 	<ul style="list-style-type: none"> 外来化学療法加算1
<ul style="list-style-type: none"> 在宅経肛門的自己洗腸指導管理料 	<ul style="list-style-type: none"> 無菌製剤処理料
<ul style="list-style-type: none"> 持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定 	<ul style="list-style-type: none"> 心大血管疾患リハビリテーション料(I)
<ul style="list-style-type: none"> 遺伝学的検査 	<ul style="list-style-type: none"> 脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
<ul style="list-style-type: none"> 骨髄微小残存病変量測定 	<ul style="list-style-type: none"> 運動器リハビリテーション料(I)
<ul style="list-style-type: none"> 抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査) 	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸器リハビリテーション料(I)
<ul style="list-style-type: none"> がん患者リハビリテーション料 	<ul style="list-style-type: none"> 乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
<ul style="list-style-type: none"> 集団コミュニケーション療法料 	<ul style="list-style-type: none"> 乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
<ul style="list-style-type: none"> 救急患者精神科継続支援料 	<ul style="list-style-type: none"> 乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
<ul style="list-style-type: none"> 抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。) 	<ul style="list-style-type: none"> ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
<ul style="list-style-type: none"> 認知療法・認知行動療法1 	<ul style="list-style-type: none"> 胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
<ul style="list-style-type: none"> 医療保護入院等診療料 	<ul style="list-style-type: none"> 肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
<ul style="list-style-type: none"> エタノールの局所注入(甲状腺) 	<ul style="list-style-type: none"> 同種死体肺移植術
<ul style="list-style-type: none"> エタノールの局所注入(副甲状腺) 	<ul style="list-style-type: none"> 生体部分肺移植術
<ul style="list-style-type: none"> 人工腎臓 	<ul style="list-style-type: none"> 食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
<ul style="list-style-type: none"> 導入期加算1 	<ul style="list-style-type: none"> 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
<ul style="list-style-type: none"> 透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算 	<ul style="list-style-type: none"> 胸腔鏡下弁形成術
<ul style="list-style-type: none"> 下肢末梢動脈疾患指導管理加算 	<ul style="list-style-type: none"> 経カテーテル大動脈弁置換術
<ul style="list-style-type: none"> 磁気による膀胱等刺激法 	<ul style="list-style-type: none"> 胸腔鏡下弁置換術
<ul style="list-style-type: none"> センチネルリンパ節加算 	<ul style="list-style-type: none"> 経皮的僧帽弁クリップ術

・皮膚移植術(死体)	・経皮的中心筋焼灼術
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。) (自家培養軟骨移植術に限る。)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。))	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・補助人工心臓
・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・経皮的下肢動脈形成術	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、等	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・麻酔管理料(I)
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・麻酔管理料(II)
・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	・放射線治療専任加算
・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・外来放射線治療加算
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・高エネルギー放射線治療
・体外衝撃波胆石破碎術	・1回線量増加加算
・腹腔鏡下肝切除術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・生体部分肝移植術	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・体外衝撃波膀胱石破碎術	・体外照射呼吸性移動対策加算

・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	・ 定位放射線治療
・ 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・ 画像誘導密封小線源治療加算
・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・ 病理診断管理加算1
・ 体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	・ 病理診断管理加算2
・ 腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・ 悪性腫瘍病理組織標本加算
・ 同種死体腎移植術	・ 歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
・ 生体腎移植術	・ 医療機器安全管理料(歯科)
・ 膀胱水圧拡張術	・ 精密触覚機能検査
・ 人工尿道括約筋植込・置換術	・ 歯科口腔リハビリテーション料2
・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・ CAD/CAM冠
・ 腹腔鏡下仙骨腫固定術	・ 上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・ 胎児胸腔・羊水腔シャント術	・ 歯周組織再生誘導手術
・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	・ 広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・ 輸血管管理料Ⅱ	・ 歯根端切除手術の注3
・ クラウン・ブリッジ維持管理料	・ 歯科矯正診断料
・ 顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの)	

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
高齢心不全患者に和温療法を用いた認知機能・筋力改善効果と分子的機序の解明	豊田 茂	内科学(心臓・血管/循環器)	2,900,000	補委 日本学術振興会
RUNX1-EVI1型白血病の分子病態の解明と分子標的療法の開発	三谷 絹子	内科学(血液・腫瘍)	1,700,000	補委 日本学術振興会
αβ T細胞再活性化による抗腫瘍効果の機序とその最適化点の解明	瀬尾 幸子	内科学(血液・腫瘍)	1,400,000	補委 日本学術振興会
腎血管性高血圧へ血行再建術の適応基準の確立と病態改善機序の解明	岩嶋 義雄	内科学(腎臓・高血圧)	700,000	補委 日本学術振興会
新たな2型糖尿病腎線維化モデルの開発および解析から迫る糖尿病腎症病態	水沼 有威子	内科学(内分泌代謝)	900,000	補委 日本学術振興会
共培養モデルにおける肺線維症の病態解明とプラズマローゲンによる治療可能性の検討	中村 祐介	内科学(呼吸器・アレルギー)	1,000,000	補委 日本学術振興会
TFH細胞機能制御を利用した全身性エリテマトーデスの治療法開発に関する基盤的研究	倉沢 和宏	内科学(リウマチ・膠原病)	1,200,000	補委 日本学術振興会
自己免疫疾患の特異的免疫記憶の分子機構の解明と治療戦略の開発	有馬 雅史	内科学(リウマチ・膠原病)	1,000,000	補委 日本学術振興会
腸管神経系と免疫系の相互作用による関節リウマチの病態制御機構の解明と新規治療開発	前澤 玲華	内科学(リウマチ・膠原病)	1,200,000	補委 日本学術振興会
TFH細胞機能制御を利用した自己免疫性間質性肺炎の治療法開発に関する基盤的研究	新井 聡子	内科学(リウマチ・膠原病)	1,200,000	補委 日本学術振興会
母集団薬物動態解析によるうつ病治療に臨床応用可能な抗うつ薬エナンチオマーの探索	下田 和孝	精神神経医学	1,200,000	補委 日本学術振興会
精神医療の信頼を高める治療同意能力評価プログラムの開発	菅原 典夫	精神神経医学	1,100,000	補委 日本学術振興会
Vitamin D補充による認知機能低下抑制治療法の検討	大曾根 彰	精神神経医学	600,000	補委 日本学術振興会
ガドリニウム刺激による皮膚線維芽細胞のリプログラミングの可能性	林 周次郎	皮膚科学	1,300,000	補委 日本学術振興会
再生医療技術を応用した新たながん画像診断法及び治療法に関する研究	中神 佳宏	放射線医学	1,100,000	補委 日本学術振興会
非培養自己ヒト皮下脂肪組織由来再生幹細胞を用いた便失禁治療の開発	石塚 満	第二外科学	1,300,000	補委 日本学術振興会
LAT1を標的分子とした胸腺癌における新たな治療戦略の開発	千田 雅之	呼吸器外科学	900,000	補委 日本学術振興会
腎細胞癌における代謝リプログラミングと免疫回避の解析	釜井 隆男	泌尿器科学	1,200,000	補委 日本学術振興会
HSF1阻害によるARバリエントを標的とした去勢抵抗性前立腺癌の新規治療の開発	木島 敏樹	泌尿器科学	1,700,000	補委 日本学術振興会
酸化・窒素化ストレスによる嗅粘膜分泌異常への関与一気道リモデリングの嗅粘膜障害	春名 眞一	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1,400,000	補委 日本学術振興会
看護必要度から解析する転倒リスク・パラメータ作成に関する基礎的検討	尾林 聡	産科婦人科学	900,000	補委 日本学術振興会
骨髄幹細胞由来高悪性度口腔扁平上皮癌発生機序の解明と臨床的意義	川又 均	口腔外科学	900,000	補委 日本学術振興会
口腔癌治療における制御性T細胞の変動解析と分子標的薬の効果的な適用法の探索	福本 正知	口腔外科学	500,000	補委 日本学術振興会
サルコペニア対策としての物理的刺激を応用したリハビリ法の開発と分子的機序の解明	中島 敏明	ハートセンター	3,100,000	補委 日本学術振興会
間質性膀胱炎における膀胱上皮再生のマスター転写因子の同定	山西 友典	排泄機能センター	800,000	補委 日本学術振興会
間質性膀胱炎の分子生物学的観点からの病態解明	加賀 勘家	排泄機能センター	300,000	補委 日本学術振興会

小計20件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
悪性リンパ腫の放射線治療による免疫応答機序の解明と効果予測法の開発	江島 泰生	放射線治療センター	1,200,000	補委 日本学術振興会
在宅心不全患者の再入院を回避する革新的ICT遠隔モニタリング環境の有用性の検証	井上 晃男	内科学(心臓・血管/循環器)	4,654,936	補委 AMED
乳がん治療における心臓合併症の画像診断を用いた新たなリスク因子探索と心機能評価法標準化に関する研究-Cardio-oncologyの実践	豊田 茂	内科学(心臓・血管/循環器)	300,001	補委 AMED
特発性造血障害に関する調査研究	三谷 絹子	内科学(血液・腫瘍)	11,688,000	補委 厚生労働省
オミクス解析技術と人工知能技術による難治性造血器疾患の病因解明と診断向上に貢献する解析基盤の開発	三谷 絹子	内科学(血液・腫瘍)	800,000	補委 AMED
TP53遺伝子変異陽性骨髄異形成症候群に対する新規治療戦略	三谷 絹子	内科学(血液・腫瘍)	130,000	補委 AMED
ATLLに対するTCR遺伝子導入リンパ球輸注療法の第I相医師主導治験	瀬尾 幸子	内科学(血液・腫瘍)	181,792	補委 AMED
眼内悪性リンパ腫に対するブルトンキナーゼ阻害剤を用いた中枢再発予防法による医師主導多施設共同治験	瀬尾 幸子	内科学(血液・腫瘍)	93,600	補委 AMED
種々の症状を呈する難治性疾患における中枢神経感作の役割の解明とそれによる患者ケアの向上	平田 幸一	内科学(神経)	6,370,000	補委 厚生労働省
種々の症状を呈する難治性疾患における中枢神経感作の役割の解明とそれによる患者ケアの向上	鈴木 圭輔	内科学(神経)	350,000	補委 厚生労働省
医療におけるAI関連技術の利活用に伴う倫理的・法的・社会的課題の研究	菅原 典夫	精神神経医学	200,000	補委 厚生労働省
認知症介護者のためのインターネットを用いた自己学習および支援プログラムの開発と有効性の検証	菅原 典夫	精神神経医学	代表者一括計上	補委 厚生労働省
じん肺エックス線写真による診断精度向上に関する研究	荒川 浩明	放射線医学	代表者一括計上	補委 厚生労働省
小児からAYA世代頭蓋外胚細胞腫瘍の治療毒性低減を目指した国際共同臨床試験	佐藤 雄也	小児科学	520,000	補委 AMED
B型肝炎に関する病態生理の新たな解明に基づく制御法開発	青木 琢	第二外科学	2,730,000	補委 AMED
全国がん登録の利活用に向けた学会研究体制の整備とその試行、臨床データベースに基づく臨床研究の推進、及び国民への研究情報提供の在り方に関する研究	千田 雅之	呼吸器外科学	代表者一括計上	補委 厚生労働省
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	種市 洋	整形外科	250,000	補委 厚生労働省
献体による効果的医療技術教育システムの普及促進に関する研究	種市 洋	整形外科	代表者一括計上	補委 厚生労働省
後縦靭帯骨化症患者レジストリの構築	種市 洋	整形外科	1,040,000	補委 AMED
医師主導治験の実施の支援及び推進に関する研究	種市 洋	整形外科	500,000	補委 AMED
咽頭・喉頭・気管狭窄症診療ガイドライン作成を目指したエビデンス創出研究	平林 秀樹	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	390,000	補委 AMED
先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の原因となる難病の診療向上に向けた、疾患横断的な全国多施設レジストリ研究	深美 悟	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	325,000	補委 AMED
就労女性のライフコースにおける女性特有の健康問題についての疫学研究	尾林 聡	産科婦人科学	390,000	補委 AMED
慢性疼痛診療システムの均てん化と痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究	山口 重樹	麻酔科学	5,000,000	補委 厚生労働省
医療用麻薬の乱用リスク要因の分析と適正使用促進のための研究	山口 重樹	麻酔科学	6,000,000	補委 厚生労働省
間質性膀胱炎の患者登録と診療ガイドラインに関する研究	山西 友典	排泄機能センター	代表者一括計上	補委 厚生労働省
可及的摘出術が行われた初発膠芽腫に対するカルムスチン脳内留置用剤を用いた標準治療確立に関する研究	植木 敬介	総合がん診療センター	260,000	補委 AMED

小計20件

合計53件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Hirosawa T, Harada Y, Morinaga K, et al.	総合診療科	Eosinopenia as a diagnostic marker of bloodstream infection in a general internal medicine setting: a cohort study	BMC Infect Dis. 2020;20(1):85. Published 2020 Jan 30.	Original Article
2	Hirosawa T, Kawamoto S, Shimizu T.	総合診療科	SAPHO syndrome	BMJ Case Rep . 2019 Dec 2;12(12):e233221.	Case report
3	Hirosawa T, Katsukura S, Shimizu T.	総合診療科	SAPHO Syndrome	Am J Med Sci . 2020 Jan;359(1):e5-e6. Epub 2019 Jul 27.	Case report
4	Hirosawa T, Shiinoki M, Shimizu T.	総合診療科	Cerebral Venous Thrombosis	Am J Med Sci . 2019 Jul;358(1):e3. Epub 2019 Mar 9.	Case report
5	Harada Y, Masuda M, Hirosawa T, et al.	総合診療科	Safety and efficacy of outpatient follow-up for referred patients with undiagnosed fever: A retrospective cohort study	Medicine (Baltimore) . 2020 Jan;99(5):e18532.	Original Article
6	Takase H, Shimizu T.	総合診療科	Erythema nodosum-like lesion on heel in a patient assumed Behçet's disease	BMJ Case Rep . 2019 Nov 19;12(11):e232056.	Case report
7	Sakamoto T, Takase H, Shimizu T.	総合診療科	Secretion from umbilicus	BMJ Case Rep . 2019 Aug 15;12(8):e231139.	Case report

8	Yokose M, Harada Y, Shimizu T.	総合診療科	Behind the Leg: Cryptococcal Meningitis, Not Cellulitis	Am J Med . 2020 Mar;133(3):e81-e82 Epub 2019 Jul 8.	Case report
9	Shimizu T.	総合診療科	Reflection Of Reflections: Building Diagnostic Expertise	Int J Gen Med . 2019 Oct 7;12:363-365.	Others
10	Shimizu T, Harada Y.	総合診療科	Preauricular Vertical Creases	Intern Med . 2019 Oct 15;58(20):3067	Case report
11	Shimizu T.	総合診療科	Author Reply: Lumbar Kyphosis	Intern Med . 2019 Jul 1;58(13):1977.	Others
12	Kokubun N, Aoki R, Nagashima T, et al.	脳神経内科	Clinical and neurophysiological variability in Andersen-Tawil syndrome.	Muscle Nerve 60(6): 752-757, 2019 Dec	Original Article
13	Suzuki K, Suzuki S, Ishii Y, et al.	脳神経内科	Serum insulin-like growth factor-1 levels in neurodegenerative diseases.	Acta Neurol Scand 139(6): 563-567, 2019 Jun	Original Article
14	Suzuki K, Fujita H, Watanabe Y, et al.	脳神経内科	Leg restlessness preceding the onset of motor symptoms of Parkinson disease: A case series of 5 patients.	Medicine(Baltimore) 98(33): e16892, 2019 Aug	Original Article
15	Suzuki K, Suzuki S, Miyamoto M, et al.	脳神経内科	Involvement of legs and other body parts in patients with restless legs syndrome and its variants.	J Neurol Sci 407: 116519, 2019 Dec	Original Article

16	Shiina T, Takashima R, Roberto D. Pascual-Marqui, et al.	脳神経内科	Evaluation of electroencephalogram using eLORETA during photic driving response in patients with migraine.	Neuropsychobiology 77(4): 186-191, 2019	Original Article
17	Suzuki K, Okuma Y, Uchiyama T, et al.	脳神経内科	Determinants of Low Body Mass Index in Patients with Parkinson's Disease: A Multicenter Case-Control Study.	J Parkinsons Dis 01 Jan 2020, 10(1):213-221	Original Article
18	Komagamine T, Kokubun N, Hirata K	脳神経内科	Batley's operation as a treatment for hysteria: a review of a series of cases in the nineteenth century.	Hist Psychiatry 31(1): 55-66, 2020 Mar	Original Article
19	Sakuramoto H, Fujita H, Suzuki K, et al.	脳神経内科	Combination of midbrain-to-pontine ratio and cardiac MIBG scintigraphy to differentiate Parkinson's disease from multiple system atrophy and progressive supranuclear palsy.	Clinical Parkinsonism & Related Disorders 2: 20-24, 2020	Original Article
20	Aoki R, Kokubun N, Komagamine T, et al.	脳神経内科	Needle electromyography, muscle MRI, and muscle pathology: Correlations in idiopathic inflammatory myopathies.	Neurology and Clinical Neuroscience 8(1): 28-35, 2020	Original Article
21	Matsubara T, Suzuki K, Kawasaki A, et al.	脳神経内科	Sudden onset of sleep caused by hypothalamic infarction: a case report.	BMC Neurology 19(1): 182, 2019 Aug	Case report
22	Hamaguchi M, Suzuki K, Fujita H, et al.	脳神経内科	Successful treatment of non-HIV progressive multifocal leukoencephalopathy: case report and literature review.	J Neurol 267(3):731-738, 2020 Mar	Case report

23	Tsukui D, Fujita H, Suzuki K, et al.	脳神経内科	A Case Report of Cryptococcal Meningitis Associated With Ruxolitinib.	Medicine (Baltimore) 99(13):e19587, 2020 Mar	Case report
24	Aso Y, Kato K, Sakurai S, et al.	内科学(内分泌代謝)	Impact of dapagliflozin, an SGLT2 inhibitor, on serum levels of soluble dipeptidyl peptidase-4 in patients with type 2 diabetes and non-alcoholic fatty liver disease.	International Journal of Clinical Practice 2019 May;73(5):e13335	Original Article
25	Jojima T, Wakamatsu S, Kase M, et al.	内科学(内分泌代謝)	The SGLT2 Inhibitor Canagliflozin Prevents Carcinogenesis in a Mouse Model of Diabetes and Non-Alcoholic Steatohepatitis-Related Hepatocarcinogenesis: Association with SGLT2 Expression in Hepatocellular Carcinoma.	International Journal of Molecular Sciences 2019 Oct 22;20(20):5237	Original Article
26	Kunii T, Iijima T, Jojima T, et al.	内科学(内分泌代謝)	Denosumab improves clinical manifestations of hypophosphatemic osteomalacia by adefovir-induced Fanconi syndrome: a case report.	Journal of Medical Case Reports 2019 Apr 20;13(1):99	Case report
27	Koike M, Hayashi S, Okamoto M, et al.	皮膚科	Juvenile dermatomyositis associated with anti-melanoma differentiation-associated gene 5 antibody positivity without complications of interstitial lung disease during the clinical course: A case report.	J Dermatol. 2019 Sep;46(9):e308-e309.	Case report

28	Hayashi S, Kaminaga T, Baba A, et al.	皮膚科	Diagnostic value of a nested polymerase chain reaction for diagnosing cutaneous sporotrichosis from paraffin-embedded skin tissue.	Mycoses. 2019 Dec;62(12):1148-1153.	Original Article
29	Komatsuzaki Y, Hayashi S, Saito F, et al.	皮膚科	Immunoglobulin G4-related disease associated with asymptomatic aortic stenosis and diagnosed based on skin lesions.	J Dermatol. 2020 Feb;47(2):e60-e61.	Letter
30	Hayashi S, Ishikawa S, Ishii E, et al.	皮膚科	Anti-Inflammatory Effects of Potassium Iodide on SDS-Induced Murine Skin Inflammation.	J Invest Dermatol. 2020 Feb 25 S0022-202X(20)30211-6.	Original Article
31	Kobayashi S, Karube Y, Inoue T, et al.	呼吸器外科	Advanced Lung Cancer Inflammation Index Predicts Outcomes of Patients with Pathological Stage IA Lung Adenocarcinoma Following Surgical Resection	Ann Thorac Cardiovasc Surg. 25(2): 87-94, 2019 Apr	Original Article
32	Nishihira M, Nakazato Y, Wakamatsu I, et al.	呼吸器外科	Roles of FoxP3-positive regulatory T cells in lymphoid follicle formation associated with lung squamous cell carcinoma	Dokkyo J Med Sci. 47(1): 9-13, 2020 Jan	Original Article
33	Chida M	呼吸器外科	Presidential Lecture of the Japanese Association for Chest Surgery in 2019	J Vis Surg. 2019 Nov(オンライン)	Others

34	Kobayashi M, Mizuno T, Yuki H, et al.	泌尿器科	Association between serum prostate-specific antigen level and diabetes, obesity, hypertension, and the laboratory parameters related to glucose tolerance, hepatic function, and lipid profile: implications for modification of prostate-specific antigen threshold	Int J Clin Oncol. 2020 Mar;25(3):472-478. doi: 10.1007/s10147-019-01527-6	Original Article
35	Yamaguchi Y, Kamai T, Higashi S, et al.	泌尿器科	Nrf2 gene mutation and single nucleotide polymorphism rs6721961 of the Nrf2 promoter region in renal cell cancer	BMC Cancer. 2019 Nov 21;19(1):1137. doi: 10.1186/s12885-019-6347-0	Original Article
36	Narimatsu T, Kambara T, Abe H, et al.	泌尿器科	5-Fluorouracil-based adjuvant chemotherapy improves the clinical outcomes of patients with lymphovascular invasion of upper urinary tract cancer and low expression of dihydropyrimidine dehydrogenase	Oncol Lett. 2019 May;17(5):4429-4436. doi: 10.3892/ol.2019.10086.	Original Article
37	Kobayashi M, Tokura Y, Kambara T, et al.	泌尿器科	Feeling of incomplete emptying with little post-void residual in patients with lower urinary tract symptoms: Clinical implications and treatment outcomes	Low Urin Tract Symptoms. 2019 Apr;11(2):O59-O64. doi: 10.1111/luts.12217	Original Article
38	Tsengelmaa Jamiyan, Hajime Kuroda, Rin Yamaguchi, et al.	病理診断学	Prognostic impact of a tumor-infiltrating lymphocyte subtype in triple negative cancer of the breast	Breast Cancer. 2020 Mar (オンライン)	Original Article
39	Shimizu R, Fukuda H, Kikuchi Y, et al.	心臓・血管外科	Clinically feasible method for assessing leukocyte rheology in whole blood	Heart and Vessels 2020 Feb;35(2):268-277	Original Article

40	Kentarou Hayashi, Yusuke Sasabuchi, Hiroki Matsui, et al.	救急医学	Clinical Effect of the Acrylonitrile-Co-Methallyl Sulfonate Surface-Treated Membrane as a Cytokine Adsorption Therapy for Sepsis due to Acute Panperitonitis:A Retrospective Cohort Study.	Blood Purif. 2020,Vol.49,No.3 364-371.	Original Article
41	Nobuyuki Kuribayashi, Daisuke Uchida, Yoichiro Hamasaki, et al.	口腔外科	Oral squamous cell carcinoma arising in a patient with wernersyndrome: genomic analysis.	International Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, 2019 Nov; 48: 1394-1397.	Case report
42	Hitoshi Kawamata	口腔外科	Cover Legend	International Journal of Oncology, 2020 Mar; 25: 649.	Others
43	Masahiro Saito, Yuki Fujita, Nobuyuki Kuribayashi, et al.	口腔外科	Troglitazone, a Selective Ligand for PPAR γ , Induces Cell-cycle Arrest in Human Oral SCC Cells	Anticancer Reserch, 2020 Mar; 40: 1247-1254.	Original Article
44	Kuribayashi N, Uchida D, Hamasaki Y, et al.	口腔外科	Oral squamous cell carcinoma arising in a patient with Werner syndrome.	Int J Oral Maxillofac Surg. 2019 Nov;48(11):1394-1397.	Case report
45	Yano H, Horinaka S, Watahiki M, et al.	腎臓・高血圧内科	Comparison of the vessel healing process after everolimus-eluting stent and bare metal stent implantations in patients with ST-elevation myocardial infarction.	Heart Vessels. 2019 Apr;34(4):572-582.	Original Article
46	Shou Onoda, Toshihiko Ishimitsu, Mayu Uematsu, et al.	腎臓・高血圧内科	Therapeutic effects of a sodium glucose cotransporter 2 inhibitor in diabetic patients with chronic kidney disease.	Dokkyo J Med Sci 2019 Jul 25; 46: 45-54.	Original Article

47	Yano H, Horinaka S, Watahiki M, et al.	腎臓・高血圧内科	Five-year outcomes after first- and second-generation drug-eluting stent implantation in all patients undergoing percutaneous coronary intervention.	J Cardiol. 2019 Aug;74(2):169-174.	Original Article
48	Uematsu-Uchida M, Ohira T, Tomita S, et al.	腎臓・高血圧内科	Rituximab in treatment of anti-GBM antibody glomerulonephritis: A case report and literature review.	Medicine (Baltimore). 2019 Nov;98(44):e17801.	Case report
49	Akihiro Tojo	腎臓・高血圧内科	Mechanism underlying selective albuminuria in minimal change nephrotic syndrome.	Int J Nephrol. 2019 Nov 3;2019:5859102.	Review
50	Goto E, Horinaka S, Ishimitsu T, et al.	腎臓・高血圧内科	Factor Xa inhibitors in clinical practice: Comparison of pharmacokinetic profiles.	Drug Metab Pharmacokinet. 2020 Feb;35(1):151-159.	Original Article
51	Yamaguchi S, Sasaki K, Kato H, et al.	第一外科	Questionnaire-based survey on management of ulcerative colitis-associated cancer in east asian countries	Digestion. 2019;99(1):86-94.	Original Article
52	Satoru Yamaguchi, Yosuke Shida, Keisuke Ihara, et al.	第一外科	Surgical procedures and short-term outcomes of a complete laparoscopic colectomy with intracorporeal anastomosis for right-sided colon cancer	Am surg. 2019 May 1;85(5):e240-e242	Original Article
53	Ihara K, Yamaguchi S, Shida Y, et al.	第一外科	Nutritional status predicts adjuvant chemotherapy outcomes for stage III colorectal cancer	J Anus Rectum Colon. 2019 Apr 25;3(2):78-83	Original Article

54	Watanabe S, Nagashima S, Onagi C, et al.	第一外科	Treatment stratetegy for pediatric giant mucinous cystadenoma:A case report	Pediatr Rep. 2019 Sep 24;11(3):8190.	Case report
55	Arai R, Ito H, Uchida N et al.	呼吸器・アレルギー内科	Measurement of fractional exhaled nitric oxide with a stationary analyzer (NOA280i®) or hand-held analyzer (NIOX MINO®) shows a strong correlation but weaker correlation at higher levels.	Dokkyo Journal of Medical Sciences 46(3) :103 ~111, 2019 Oct	Original Article
57	Nakamura Y, Shimizu Y	呼吸器・アレルギー内科	Induced Pluripotent Stem Cells for Regenerative Medicine: Quality Control Based on Evaluation of Lipid Composition.	Advances in Experimental Medicine and Biology. Vol. 1212, 49-56, Spriger, New York, NY, 2019.	Review
58	Suzuki T, Mori S, Shimizu T, et al.	第二外科	Clinical Significance of Neoadjuvant Chemotherapy With Gemcitabine Plus S-1 for Resectable Pancreatic Ductal Adenocarcinoma	In Vivo . Nov-Dec 2019;33(6):2027-2035.	Original Article
59	Aoki T, Kubota K, Hasegawa K, et al.	第二外科	Significance of the surgical hepatic resection margin in patients with a single hepatocellular carcinoma	Br J Surg . 2020 Jan;107(1):113- 120.	Original Article
60	Sakuraoka Y, Kubota K, Imura J, et al.	第二外科	Microsatellite Analysis of Recurrent Lesions Confirms Merit of Anatomical Liver Resection for Hepatocellular Carcinoma	Anticancer Res . 2019 Aug;39(8):4315- 4324.	Original Article

61	Mori S, Aoki T, Park KH, et al.	第二外科	Impact of preoperative percutaneous transhepatic biliary drainage on post-operative survival in patients with distal cholangiocarcinoma	ANZ J Surg . 2019 Sep;89(9):E363-E367.	Original Article
62	Kubota K, Aoki T, Kumamaru H, et al.	第二外科	Use of the National Clinical Database to evaluate the association between preoperative liver function and postoperative complications among patients undergoing hepatectomy.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2019 Aug;26(8):331-340.	Original Article
63	Shimizu T, Ishizuka M, Park KH, et al.	第二外科	Preoperative lymphocyte-to-monocyte ratio is useful for stratifying the prognosis of hepatocellular carcinoma patients with a low Cancer of the Liver Italian Program score undergoing curative resection.	Ann Gastroenterol Surg. 2019 Apr 23;3(3):325-335.	Original Article
64	Shimizu T, Kubota K, Suzuki T, et al.	第二外科	A technique for taping inferior vena cava caudal to the duodenum: duodenal penetration by IVC filter strut after retroperitoneal lymph node dissection-usefulness of the mesenteric approach.	Surg Case Rep. 2019 Apr 24;5(1):69.	Case report
65	Shiraki T, Ishizuka M, Kubota K, et al.	第二外科	An elevated neutrophil-to-lymphocyte ratio predicts a poor postoperative survival in primary hepatocellular carcinoma patients with a normal preoperative serum level of alpha-fetoprotein.	Surg Today. 2019 Aug;49(8):661-669.	Original Article

66	Matsumoto T, Kubota K, Hachiya H, et al.	第二外科	Impact of Tumor Location on Postoperative Outcome of Intraductal Papillary Neoplasm of the Bile Duct.	World J Surg. 2019 May;43(5):1313-1322.	Original Article
67	Iwasaki Y, Ishizuka M, Takagi K, et al.	第二外科	A high preoperative Glasgow prognostic score predicts a high likelihood of conversion from laparoscopic to open surgery in patients with colon cancer.	Surg Endosc. 2019 Apr;33(4):1111-1116.	Original Article
68	Yamanishi T, Kaga K, Sakata K, et al.	排泄機能センター	A Randomised Controlled Study of the Efficacy of Tadalafil Monotherapy Versus Combination of Tadalafil and Mirabegron for the Treatment of Overactive Bladder Associated with Benign Prostatic Hyperplasia(CONTACT Study).	European Medical Journal.2019.Apr.(1)37-38	Original Article
69	Yamanishi T, Kaga K, Sakata K, et al.	排泄機能センター	A randomized controlled study of the efficacy of tadalafil monotherapy versus combination of tadalafil and mirabegron for the treatment of persistent overactive bladder symptoms in men presenting with lower urinary tract symptoms (CONTACT Study).	Neurourology and Urodynamics 2020 Feb;39(2):804-812 doi: 10.1002/nau.24285	Original Article
70	Yamanishi T	排泄機能センター	Cellular reprogramming offers new insights	www.impact.pub,(7)38-40,2019	Letter
71	Sasaki S, Seo Y, Hara R, et al.	形成外科	Strangulated umbilical herniation into urachal anomaly.	SN Compr Clin Med (2019)Jun 1: 552-556	Case report

72	Katsuki Y, Matsushima H, Mukai K, et al.	眼科	Open-capsule intraocular lens to prevent posterior capsule opacification.	J Cataract Refract Surg 2019 Jul;45(7):1007- 1012	Original Article
73	Miyajima T, Melangath G, Zhu S, et al.	眼科	Loss of NQO1 generates genotoxic estrogen-DNA adducts in Fuchs Endothelial Corneal Dystrophy.	Free Radic Biol Med. 2020 Feb 1;147:69-79.	Original Article
74	Koyabu Y, Abe S, Sakuma M, et al.	心臓・血管内科／循環器内 科	Short-term safety and mid-term efficacy of prasugrel versus clopidogrel in patients undergoing percutaneous coronary intervention.	Intern Med, 2019 Aug 15;58(16):2315-2322	Original Article
75	Saito F, Toyoda S, Arikawa T, et al.	心臓・血管内科／循環器内 科	Prediction of acute- phase complications in patients with infectious endocarditis.	Intern Med. 2019 Aug 15;58(16):2323-2331	Original Article
76	Abe S, Inoue T.	心臓・血管内科／循環器内 科	Perspectives of a catheter-based nitric oxide sensor for the evaluation of endothelial function.	Vasc Fail 2019.Sep 26;3: 1-5.	Review
77	Arikawa T, Masuyama D, Waku R, et al.	心臓・血管内科／循環器内 科	Obstructive sleep apnea as a risk factor for the onset and progression of aortic dissection.	Vasc Fail 2019.Sep 26;3: 6-11.	Original Article
78	Toyoda S, Haruyama A, Inami S, et al.	心臓・血管内科／循環器内 科	Effects of carvedilol vs bisoprolol on inflammation and oxidative stress in patients with chronic heart failure.	J Cardiol2020 Feb;75(2):140-147	Original Article
79	Sakuma M, Toyoda S, Inoue T, et al.	心臓・血管内科／循環器内 科	Inflammation in pulmonary artery hypertension.	Vascul Pharmacol Jul- Aug 2019;118- 119:106562.	Review

80	Abe S, Nishino S, Sakuma M, et al.	心臓・血管内科／循環器内科	Low endothelial shear stress - a silent killer.	Circ J. 2019 May 24;83(6):1197-1199	Review
81	Toyoda S, Arikawa T, Inami S, et al.	心臓・血管内科／循環器内科	Patients with congestive heart failure benefit from long-term treatment effects with novel treatment using azosemide compared with furosemide derived from existing retrospective study data: CONTENTED.	J Cardiovasc Pharmacol 2019 Jun;73(6):365-372.	Original Article
82	Nakajima T, Shibasaki I, Sawaguchi T, et al.	心臓・血管内科／循環器内科	Growth differentiation factor-15 (GDF-15) is a biomarker of muscle wasting and renal dysfunction in preoperative cardiovascular surgery patients.	J Clin Med 2019 Oct 1;8(10):1576.	Original Article
83	Nishino S, Sakuma M, Kanaya T, et al.	心臓・血管内科／循環器内科	Neointimal tissue characterization after implantation of drug-eluting stents by optical coherence tomography: quantitative analysis of optical density.	Int J Cardiovasc Imaging 2019 Nov;35(11):1971-1978.	Original Article
84	Sawaguchi T, Nakajima T, Haruyama A, et al.	心臓・血管内科／循環器内科	Association of serum leptin and adiponectin concentrations with echocardiographic parameters and pathophysiological states in patients with cardiovascular disease receiving cardiovascular surgery.	PLoS One 2019 Nov 8;14(11):e0225008	Original Article
85	Sakuma M, Toyoda S, Hashimoto R, et al.	心臓・血管内科／循環器内科	Add-on ezetimibe treatment to low-dose statins vs medium-intensity statin monotherapy in coronary artery disease patients with poorly controlled dyslipidemia.	Hypertens Res 2019 Dec;42(12):1923-1931.	Original Article

86	Toyoda S, Saito F, Inoue T.	心臓・血管内科／循環器内科	Authors' Reply: How to Construct Novel Criteria for Predicting Complication with Infectious Endocarditis	Intern Med 2020 Jan 1;59(1):147-148.	Letter
87	Nakajima T, Toyoda S, Inoue T.	心臓・血管内科／循環器内科	Local epicardial adipose tissue deposits and left ventricular diastolic function in patients with preserved left ventricular ejection fraction.	Circ J 2020 Jan 24;84(2):156-157.	Review
88	Tajima E, Sakuma M, Tokoi S, et al.	心臓・血管内科／循環器内科	The comparison of endothelial function between conduit artery and microvasculature in patients with coronary artery disease.	Cardiol J. 2020;27(1):38-46.	Original Article
89	Kanazawa M, Takahashi F, Tominaga K, et al.	消化器内科	Relationship between endoscopic mucosal healing and histologic inflammation during remission maintenance phase in ulcerative colitis: a retrospective study.	Endosc Int Open. 2019 Apr;7(4):E568-E575.	Original Article
90	Irisawa A, Miyoshi H, Itoi T, et al.	消化器内科	Recent innovations in therapeutic endoscopy for pancreatobiliary diseases.	Dig Endosc. 2020 Mar;32(3):309-315	Original Article
91	Goda K, Dobashi A, Yoshimura N, et al.	消化器内科	Dye solution optimizing staining conditions for in vivo endocytoscopy for normal villi and superficial epithelial tumors in the duodenum.	Ann Gastroenterol. Jul-Aug 2019;32(4):378-386.	Original Article

92	Goda K, Irisawa A.	消化器内科	Japan Esophageal Society classification for predicting the invasion depth of superficial esophageal squamous cell carcinoma: Should it be modified now?	Dig Endosc. 2020 Jan;32(1):37-38.	Original Article
93	Takenaka K, Tominaga K, Kanazawa M, et al.	消化器内科	Endoscopic score vs blood cell indices for determining timing of immunomodulator withdrawal in quiescent ulcerative colitis.	Sci Rep. 2019 Nov 28;9(1):17751.	Original Article
94	Nagashima K, Ijima M, Kimura K, et al.	消化器内科	Does the Use of Low Osmolality Contrast Medium Reduce the Frequency of Post-Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatography Pancreatitis: A Comparative Study Between Use of Low and High Osmolality Contrast Media.	Digestion. 2019 Nov 26;1-6.	Original Article
95	Yamabe A, Irisawa A, Bhutani MS, et al.	消化器内科	Validity of Endoscopic Ultrasound Findings of Chronic Pancreatitis: Evaluation from the Viewpoint of Disease Risk Factors.	Digestion. 2019 Dec 4;1-9.	Original Article
96	Arisaka T, Kanazawa M, Tominaga K, et al.	消化器内科	Hematemesis due to Drug Allergy to Oral Prednisolone in a Patient with Ulcerative Colitis.	Intern Med. 2019 Apr 15;58(8):1093-1096.	Case report
97	Fukushi K, Tominaga K, Takenaka K, et al.	消化器内科	Severe acute pancreatitis with inflammation extending to the scrotum.	Clin Case Rep. 2019 Nov 6;7(12):2592-2593	Case report

98	Sakuma F, Tsuchida K, Minaguchi T, et al.	消化器内科	A rare case of pulmonary lepidic metastasis in patient with branch-type intraductal papillary mucinous carcinoma of the pancreas.	Clin J Gastroenterol. 2019 Dec;12(6):621-625.	Case report
99	Mitsuhiro Hayashi, Kyoko Nakazawa, Yoshie Hasegawa. et al.	乳腺センター	Risk Analysis for Chemotherapy-induced Nausea and Vomiting (CINV) in Patients Receiving FEC100 Treatment	ANTICANCER RESEARCH 2019 Aug;39(8):4305-4314.	Original Article
100	Shinozaki M, Pierce J, Hayashi Y, et al.	精神科	8-Hydroxylation and Glucuronidation of Mirtazapine in Japanese Psychiatric Patients: Significance of the Glucuronidation Pathway of 8-Hydroxy-Mirtazapine.	Pharmacopsychiatry. 2019 Sep;52(5):237-244.	Original Article
101	Yasui-Furukori N, Murakami H, Otaka H, et al.	精神科	Personality Traits Do Not Have Influence on Glycemic Control in Outpatients with Type 2 Diabetes Mellitus.	Psychiatry Investig. 2020 Jan;17(1):78-84.	Original Article
102	Yokoyama N, Shiraki R, Watanabe T, et al.	精神科	Difficult differentiation of a somatic symptom disorder from anterior cutaneous nerve entrapment syndrome (ACNES): a case report.	BMC Psychiatry. 2019 Dec 12;19(1):394.	Case report
103	Sugawara N, Yasui-Furukori N, Sumiyoshi T.	精神科	Competence to Consent and Its Relationship With Cognitive Function in Patients With Schizophrenia.	Front Psychiatry.2019 Apr 12;10:195	Original Article
104	Yasui-Furukori N, Murakami H, Otaka H, et al.	精神科	Personality associated with depressive status in individuals with type 2 diabetes mellitus.	Neuropsychiatr Dis Treat. 2019 May 3;15:1133-1139.	Original Article

105	Yasui-Furukori N, Murakami H, Otaka H, et al.	精神科	Coping behaviors and depressive status in individuals with type 2 diabetes mellitus.	Ann Gen Psychiatry. 2019 Jul 17;18:11	Original Article
106	Yoshihara S, Nakayama M, Kato M, et al.	小児科	Sensitization to allergen components from natural rubber latex(<i>Hevea Brasiliensis</i>) in a 15- year old girl undergoing multiple surgical procedures	J case reports in medicine. 2019 Jun; 8(3): 2-3.	Case report
107	Ando Y, Miyamoto M, Kato M, et al.	小児科	Pru p 7 Predicts Severe Reactions after Ingestion of Peach in Japanese Children and Adolescents	Int Arch Allergy Immunol. 2020 Mar;181(3):183-190	Original Article
108	Ichikawa G, Kuribayashi R, Ikenaka Y, et al.	小児科	LC-ESI/MS/MS analysis of neonicotinoids in urine of very low birth weight infants at birth	PLoS One 2019 Jul 1;14(7):e0219208.	Original Article
109	Miyamoto M, Imataka G, Ichikawa G, et al.	小児科	Successful treatment of a 12- year-old boy with Guillain-Barré syndrome requiring tracheostomy due to respiratory muscle paralysis: A case report	Exp Ther Med. 2020 Feb;19(2):1091-1094.	Original Article
110	Ichikawa G, Arisaka O, Koyama S, et al.	小児科	Growth failure in infancy and early adiposity rebound	J Pediatr Endocrinol Metab. 2019 May 27;32(5):527.	Letter
111	Ichikawa G, Arisaka O, Nakayama K, et al.	小児科	Increase of body mass index is a useful predictor of childhood obesity	J Pediatr. 2019 Dec;215:284-285	Letter

112	Sugawara S, Imataka G, Yoshihara S.	小児科	Usefulness of Non-Contact Infrared Thermometer for Early Neonatal Period Using Bland-Altman Analysis	Iran J Public Health.2020 Feb;49(2):411-413.	Original Article
113	Imataka G, Yoshihara S.	小児科	Typical MRI Imaging with Clinically Mild Encephalitis/Encephalopathy of a Reversible Splenial Lesion (MERS) Caused by Influenza A Virus	Iran J Public Health.2020 Jan;49(1):191-192.	Original Article
114	Hiroaki Kanaya, Kazutaka Goto, Hideki Hirabayashi, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	CD133 Positive Head and Neck Squamous Cell Carcinoma Exhibit Invasive Properties after Exposure to Low Concentration of Chemotherapy reagents	Open Journal of Otolaryngology 2(1), 2019	Original Article
115	Wataru Konno, Takashi Kashiwagi, Yasuhiro Tsunemi, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Long-term Postoperative Control of Eosinophilic Chronic Rhinosinusitis Recurrence by Inserting a Steroid-Eluting, Sinus-Bioabsorbable Device Reduces the Dosage of Oral Steroid.	Auris Nasus Larynx 2019 Jun;46(3):365-373	Original Article
116	Takashi Kashiwagi, Yasuhiro Tsunemi, Makoto Akutsu, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Postoperative evaluation of olfactory dysfunction in eosinophilic chronic rhinosinusitis - comparison of histopathological and clinical findings.	Acta Otolaryngol 2019 Oct;139(10):881-889.	Original Article
117	Hiroshi Irisawa, Takashi Mizushima	リハビリテーション科	Assessment of Changes in Muscle Mass, Strength, and Quality and Activities of Daily Living Among Stroke Patients	Stroke. 2020 Feb; Vol 51, Issue Suppl_1	Others

118	Komatsuzaki M, Takasusuki T, Kimura Y, et al.	麻酔科	Assessment of the ECG T-Wave in Patients With Subarachnoid Hemorrhage.	J Neurosurg Anesthesiol. 2019 Jul 8. doi:10.1097/ANA.0000000000000624	Original Article
119	Kokubu S, Eddinger KA, Yamaguchi S, et al.	麻酔科	Characterization of Analgesic Actions of the Chronic Intrathecal Infusion of H-Dmt-D-Arg-Phe-Lys-NH2 in Rat.	Neuromodulation. 2019 Oct;22(7):781-789.	Original Article
120	Kumazawa M, Arakawa H, Shiobara T, et al.	放射線科	A Case of Diffuse Intrapulmonary Malignant Mesothelioma.	J Thorac Imaging. 2019 Nov;34(6):W147-W149.	Case report
121	Emi Motegi, Kiyoshi Hasegawa, Shoko Ochiai, et al.	産婦人科	Efficacy and complications of emergent transcatheter arterial embolization for the management of intractable uterine bleeding	Dokkyo Journal of Medical Sciences. 2020.Mar;47:15-25	Original Article

計121件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					
2					
3					
~					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 本学の倫理審査委員会について、審査の流れ、手続きについて	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反管理の対象、利益相反管理委員会について、利益相反管理委員会の審査の流れ	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年2回(持回審査)

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年2回(e-learning)
・ 研修の主な内容 e-learning教材「eAPRIN」医学研究者標準コース	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

1. 初期臨床研修

当院では初期臨床研修制度に規定される、基幹型臨床研修病院（大学病院）として、2年間の初期研修医教育を行っています。

プライマリ・ケアの習得を目的に、当院が擁する30診療科と臨床研修協力病院からなる病院群で研修を行うことにより、頻度の高い症例から高度医療まで網羅し、幅の広い初期臨床研修を行うことを可能としております。

当院における高度の医療に関する研修については、各診療科とも開業医及び市中病院より病診連携による紹介患者の受入れを実施しており、各種移植手術等の高難度手術適応患者の受入れや高度がん治療適用患者の受入れ、特定疾患治療等に代表される高度医療を実施し、同時に初期研修医・専攻医の診療参加および研修指導を実施しています。また、救急科研修においては当院の救命救急センターにて、救急車やドクターヘリによる3次救急患者（外傷・内疾患）の高度救命治療も研修カリキュラムの一環として組み込んでいます。

2. 専門研修

プライマリ・ケアを中心とした幅広い診療能力の習得を目的とする初期研修了後は、レジデントとして専門研修に続きます。

当院の専門研修は、これらの点を考慮して専門医研修が効果的に行われるように、診療各科の特徴を生かした専門研修プログラムとして、豊富な症例数と経験豊富な指導医により日本専門医機構が認定する全19基本領域の基幹プログラムを整備しています。また、当院では大学病院として高度医療を実施しており、サブスペシャリティ専門医資格の取得を目指す研修も可能です。

以上の研修プログラムにより専門医の育成・輩出を通じ地域医療への貢献に務めています。研修プログラム一覧は以下のとおりです。

【日本専門医機構認定 基本領域専門研修プログラム一覧（基幹プログラム）】

※歯科口腔外科を除く

- ①内科（総合内科） 獨協医科大学病院内科専門医養成プログラム
- ②小児科 獨協医科大学病院小児科専門医養成プログラム
- ③皮膚科 獨協医科大学病院皮膚科研修プログラム
- ④精神科 獨協医科大学病院精神科専門医育成プログラム
- ⑤外科 獨協医科大学外科専門研修プログラム
- ⑥整形外科 獨協医科大学病院整形外科専門医養成プログラム
- ⑦産科婦人科 獨協医科大学病院産婦人科専門研修プログラム
- ⑧眼科 獨協医科大学病院眼科専門医養成プログラム
- ⑨耳鼻咽喉科 獨協医科大学病院耳鼻咽喉・頭頸部外科専門医養成プログラム
- ⑩泌尿器科 獨協医科大学病院泌尿器科専門研修プログラム
- ⑪脳神経外科 獨協医科大学脳神経外科専門研修プログラム

- ⑫放射線科 獨協医科大学病院放射線科専門研修プログラム
- ⑬麻酔科 獨協医科大学病院麻酔科専門医研修プログラム
- ⑭病理診断科 獨協医科大学病院病理専門研修プログラム
- ⑮臨床検査科 獨協医科大学病院臨床検査専門研修プログラム
- ⑯救急科 獨協医科大学病院救急科専門医研修プログラム
- ⑰形成外科 獨協医科大学形成外科研修プログラム
- ⑱リハビリテーション科 獨協医科大学病院リハビリテーション科専門医養成プログラム
- ⑲総合診療科（家庭医） 獨協医科大学病院総合診療専門医養成プログラム

口腔外科（歯科医師） 口腔外科専門医取得コース

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	155人（歯科医師含む）
-------------	--------------

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
井上 晃男	心臓・血管内科／循環器内科	主任教授	39年	
入澤 篤志	消化器内科	主任教授	31年	
三谷 絹子	血液・腫瘍内科	主任教授	36年	
石光 俊彦	腎臓・高血圧内科	主任教授	39年	
平田 幸一	脳神経内科	主任教授	40年	
麻生 好正	内分泌代謝内科	主任教授	33年	
仁保 誠治	呼吸器・アレルギー内科	主任教授	26年	
倉沢 和宏	リウマチ膠原病内科	主任教授	37年	
志水 太郎	総合診療科	主任教授	15年	
下田 和孝	精神神経科	主任教授	37年	
井川 健	皮膚科	主任教授	25年	
楫 靖	放射線科	主任教授	31年	
吉原 重美	小児科	主任教授	37年	

小嶋 一幸	外科・小児外科 (第1外科)	主任教授	33年	
窪田 敬一	外科 (第2外科)	主任教授	39年	
林 光弘	乳腺科	学内教授	28年	
福田 宏嗣	心臓・血管外科	主任教授	34年	
千田 雅之	呼吸器外科	主任教授	34年	
金 彪	脳神経外科	主任教授	40年	
種市 洋	整形外科	主任教授	34年	
釜井 隆男	泌尿器科	主任教授	29年	
妹尾 正	眼科	主任教授	34年	
春名 眞一	頭頸部・耳鼻咽喉科 (耳鼻咽喉・頭頸部外科)	主任教授	35年	
深澤 一雄	産婦人科 (産科婦人科)	主任教授	40年	
美津島 隆	リハビリテーション科	主任教授	31年	
朝戸 裕貴	形成外科・美容外科	主任教授	36年	
濱口 眞輔	麻酔科	主任教授	31年	
山口 重樹	麻酔科	主任教授	28年	
小野 一之	救急科 (救命救急センター)	主任教授	38年	
宮地 和人	健康管理科	主任教授	39年	
石田 和之	病理診断科	主任教授	23年	
川又 均	歯科口腔外科	主任教授	34年	歯科医師

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・令和元年度 第1回放射線部勉強会

「放射線部内のインシデント報告と分析（平成30年度）」

「医療法改正と医療被ばく低減施設認定」

「JRC2019研究発表および倫理審査について」

日時：令和元年5月16日（木） 17：30～18：30

参加人数：42名

・令和元年度 第2回放射線部勉強会

「患者介助について」

～移乗及び体位変換について～

日時：令和元年6月14日（金） 17：30～18：30

参加人数：23名

・令和元年度 第3回放射線部勉強会

「導入前説明会 ～最新型Dual Source CT について～」

1. 2管球Cの特徴について

2. 心臓検査について（臨床向け）

3. Via の運用方法について

日時：令和元年6月14日（金）・7月11日（木） 17：20～18：20

参加人数：6/14：43名 7/11：36名

・令和元年度 第4回放射線部勉強会

インターネットライブセミナー

「造影剤の安全性について 最新の話」

日時：令和元年7月11日（木） 18：30～19：30

参加人数：28名

・令和元年度 第5回放射線部勉強会

「実習で習得したこと」・放射線学科臨床実習生報告

「第23回日本医療情報学会春季学術大会シンポジウム」に参加して

「消毒剤の使用と管理について」

日時：令和元年7月24日（水） 17：30～18：15

参加人数：28名

・令和元年度 第6回放射線部勉強会

「被ばく低減施設認定更新準備について」

日時：令和元年8月20日（火） 17：30～18：10

参加人数：42名

・令和元年度 第7回放射線部勉強会

「血管撮影装置の紹介」

～リプレースに向けて～

日時：令和元年8月22日（水） 17：30～18：30

参加人数：31名

・令和元年度 第8回放射線部勉強会

「PMETフレッシューズセミナー 報告」

「医療現場のワークフロー変革セミナー2019 報告」

「台湾学会発表 報告」

日時：令和元年9月17日（火） 17：30～18：20

参加人数：37名

・令和元年度 第9回放射線部勉強会

「職場におけるメンタルヘルス」

「令和元年度獨協医科大学医療安全管理者養成講習会 報告」

「PMET 実習施設指導者等養成講習会 報告」

日時：令和元年10月18日（金） 17：30～18：30

参加人数：24名

・令和元年度 第10回放射線部勉強会

「ハラスメントDVD研修」（心の不調の気づき方・メンタルヘルス編）

日時：令和元年10月17日・23日・24日・29日 15：00～17：00の中の30分・計16回

参加人数：73名

・令和元年度 第11回放射線部勉強会

「Angioインジェクター説明会～次期更新に向けて」

「サーバイメータ活用講習会に参加して」

日時：令和元年11月14日（木） 17：30～18：30

参加人数：36名

・令和元年度 第12回放射線部勉強会

「放射線部における感染対策について」

「国際医療福祉大学 実習終了報告」

日時：令和元年12月5日（木） 17：15～18：30

参加人数：35名

・令和元年度 第13回放射線部勉強会

インターネットライブセミナー

「重要性を増す造影CTの安全管理：運用の実際」

「スペクトラルCTにおける造影CT活用法」

日時：令和2年1月9日（木） 18：00～19：00

参加人数：17名

・第20回日本検査血液学会予演会：2019年7月3日 21名

- ・ 栃木県衛生福祉大学校実習生の臨地実習報告会：2019年7月11日 31名
- ・ 東武医学技術専門学校実習生の臨地実習報告会：2019年7月31日 26名
- ・ 2019年日本臨床一般検査学会予演会：2019年8月28日 20名
- ・ 第39回栃木県医学検査学会の予演会 Part-1：2019年9月20日 40名
- ・ 第39回栃木県医学検査学会、日本臨床検査自動化学会第51回大会の予演会 Part-2
：2019年9月25日 20名
- ・ 日本臨床検査自動化学会第51回大会の予演会 Part-3：2019年10月1日 30名
- ・ 第9回日本認知症予防学会学術集会の予演会：2019年10月10日 16名
- ・ 研究・検討にともなう臨床研究審査委員会の提出方法について：2019年12月26日 38名
- ・ 令和元年度獨協医科大学教育セミナー、第31回日本臨床微生物学会総会の予演会：2020年1月20日 20名

看護部研修関連

【新採用看護職員に関する研修】

- ・ 研修の期間・実施回数：2019年 4月 7回
- ・ 研修の参加人数：952名

【方針説明会】

- ・ 研修の期間：2019年 4月 1回
- ・ 研修参加人数：479名

【看護研究発表会】

- ・ 研修期間：2019年6月・11月 2回
- ・ 研修参加人数：743名

【看護部研修会】 HcbookS記録研修会・認知症講演会 3階

- ・ 研修期間：2019年9月から2020年1月
- ・ 研修参加人数：366名

【専門領域】がん看護・災害看護・感染看護・母性・新生児看護・小児・皮膚排泄・在宅看

護脳卒中・認知症看護・慢性疾患看護等

・研修期間：2019年8月から 2020年2月 31回

・研修参加人数：673名

【レベルⅠa研修】看護記録・インシデント・スキンケア・災害看護等・リフレッシュ

・研修期間・実施回数：2019年5月から11月 5回

・研修参加人数：598名

【レベルⅠb研修】医療安全

・研修期間・実施回数：2019年5月 1回

・研修参加人数：83名

【レベルⅡ研修】倫理原則・ケースレポート発表会

・研修期間・実施回数：2019年6月から11月 3回

・研修参加人数：196名

【レベルⅢa研修】看護研究入門・倫理等

・研修期間・実施回数：平2019年5月から11月 3回

・研修参加人数：222名

【レベルⅢc研修】看護研究・発表会等

・研修期間・実施回数：2019年5月から12月 3回

・研修参加人数：45名

【新人看護職員指導者研修】求められる能力と資質

・研修期間・実施回数：2019年4月 1回

・研修参加人数：34名

【新人教育実施指導者研修】求められる能力と資質

・研修期間・実施回数：2019年4月 1回

・研修参加人数：44名

【実習指導者研修】心がまえ・専門学校との合同研修

・研修期間・実施回数：2019年5月 2回

・研修参加人数：126名

【プリセプター看護師研修】任務と業務

・研修期間・実施回数：2019年4月 1回

・研修参加人数：46名

【看護補助者研修】任務と業務・看護ケア・感染予防等

・研修期間・実施回数：2019年5月から7月 3回

・研修参加人数：326名

・新規採用医薬品についての研修

・併用禁忌薬研修

・中途採用者、産休明け職員への医薬品安全管理研修

・認知症認定看護師研修

・看護専門学校薬理学研修

10～80名参加

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・放射線部装置説明会

「RIS仕様説明会」

日時：平成31年4月8日（月）・19日（金）・26日（金） 17：00～18：00

参加人数：19名

・放射線部装置説明会

「CT導入前説明会」

日時：令和元年5月14日（火） 17：00～18：00

参加人数：19名

・令和元年度 放射線部2階エリア患者急変時対応シミュレーション

「造影剤の軽症副作用から重症へ移行した際の対応の対応能力の向上に取り組める」

日時：令和元年8月1日(木) 17:10~18:10

参加人数：50名

・放射線部装置説明会

「放射線管理システム version up 説明」

日時：令和元年10月3日(木) 16:30~16:50

参加人数：12名

・令和元年度 放射線部MRI検査室エリア患者急変時対応シミュレーション

日時：令和元年11月20日(水) 12:40~13:00

参加人数：23名

・令和元年度 放射線部2階エリア災害時シミュレーション

「CT検査室における災害時の対応について」

日時：令和元年11月21日(木) 17:10~17:50

参加人数：43名

・臨床検査センター全体集会、昇格者・新入職員・実習生紹介、H30年度臨床検査センター

医療安全報告会：2019年4月10日 57名

・第15回生理機能検査 理解度講習会(心電図・心電図受付業務・他)：2019年4月24日 15名

・脳死判定における脳波記録の研修会：2019年5月1日 11名

・ISO15189品質マネジメントシステム(QMS)を理解しよう：2019年5月8日 107名

・ISO15189 感染対策～安全に業務を行うために：2019年5月10日 96名

・全自動化学発光免疫測定装置Alinityについて：2019年5月13日 21名

・ISO15189 倫理規定・患者情報の守秘義務：2019年5月17日 95名

・ISO15189 毒物・劇物管理、廃棄物管理：2019年5月22日 96名

・患者さんの安全な移乗(理学療法士さんによる講義と実技)：2019年5月24日 44名

・国公立医科大学研修会・日臨技関東甲信臨床化学研修会・私立医大研修出張報告：

2019年5月28日 39名

- ・ ISO15189 ①患者急変時の対応、②災害時・緊急時の対応：2019年5月30日 96名
- ・ ISO15189 品質マニュアルの見直しについて：2019年6月11日 49名
- ・ 第16回生理機能検査 理解度講習会（PSG解析）：2019年6月14日 11名
- ・ IL2-R：2019年7月4日 18名
- ・ Alin IQ AMS DSS（検査システム、診断システムについて）：2019年7月10日 15名
- ・ 肝線維化マーカー オートタキシンについて：2019年7月18日 26名
- ・ 次期臨床検査システムのプレゼンテーション：2019年7月30日 31名
- ・ 赤血球沈降速度の検査：2019年8月26日 14名
- ・ 生化学・免疫検査における基礎知識と日常検査への応用：2019年9月18日 20名
- ・ 次期電子カルテ稼動に伴うマージ機能の運用説明：2019年9月19日 38名
- ・ 血液凝固分析装置「ACL TOP」について：2019年9月24日 13名
- ・ IFCC 対応 ALP、LD について：2019年11月12日 15
- ・ 2019年度年末年始宿日直業務引継ぎ：2019年12月20日 31名
- ・ 第17回生理機能検査 理解度講習会(5Sの復習)：2020年1月9日 19名
- ・ 患者急変時の対応(初期対応を重点にした実技講習会)：2020年1月16日 46名
- ・ 医療職(医療従事者)における接遇：2020年1月23日 25名
- ・ 自動搬送システム IDS の運用説明会：2020年2月14日 30名
- ・ ワークライフバランスについて：2020年2月18日 31名
- ・ 安全な採血と採血室の運用変更：2020年2月25日 30名

【師長研修会】

- ・ 研修の期間・実施回数：2019年11月 1回 参加人数：37名

【主任看護師研修会】

- ・ 研修の期間・実施回数：2019年4月から2020年2月 4回 参加人数：193名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容 ・ 研修の期間・実施回数 ・ 研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ○ 2. 現状																				
管理責任者氏名	病院長 窪田敬一																				
管理担当者氏名	<table border="0"> <tr> <td>庶務課</td> <td>鶴見 好邦</td> <td>医事保険課</td> <td>車田 みゆき</td> </tr> <tr> <td>診療記録管理部</td> <td>石川 昌宏</td> <td>医療安全推進センター</td> <td>麻生 保</td> </tr> <tr> <td>医療連携部門</td> <td>五月女 弘実</td> <td>感染制御センター</td> <td>小川 栄一</td> </tr> <tr> <td>経理課</td> <td>赤間 康弘</td> <td>臨床研修センター</td> <td>石橋 広昭</td> </tr> <tr> <td>薬剤部</td> <td>本田 雅巳</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	庶務課	鶴見 好邦	医事保険課	車田 みゆき	診療記録管理部	石川 昌宏	医療安全推進センター	麻生 保	医療連携部門	五月女 弘実	感染制御センター	小川 栄一	経理課	赤間 康弘	臨床研修センター	石橋 広昭	薬剤部	本田 雅巳		
庶務課	鶴見 好邦	医事保険課	車田 みゆき																		
診療記録管理部	石川 昌宏	医療安全推進センター	麻生 保																		
医療連携部門	五月女 弘実	感染制御センター	小川 栄一																		
経理課	赤間 康弘	臨床研修センター	石橋 広昭																		
薬剤部	本田 雅巳																				

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	庶務課
		各科診療日誌	庶務課
		処方せん	薬剤部
		手術記録	診療記録管理部
		看護記録	診療記録管理部
		検査所見記録	診療記録管理部
		エックス線写真	診療記録管理部
		紹介状	診療記録管理部
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療記録管理部
			診療録は、1患者1ID制で診療記録管理部が一元管理しており、電子カルテについては、真正性・見読性・保存性の確保に基づき、医療情報委員会が運用・管理している。 。診療録の院外持ち出しは原則禁止としており、やむを得ず、院外に持ち出す場合には、匿名化されている情報については所属長、匿名化されていない情報は所定の申請書により所属長及び病院長の許可を得ることになっている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課
		高度の医療の提供の実績	医事保険課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事保険課
		高度の医療の研修の実績	庶務課 臨床研修センター
		閲覧実績	庶務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療連携部門 医事保険課
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事保険課 薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進センター
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全推進センター
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全推進センター
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全推進センター

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御センター
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御センター
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御センター
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御センター
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部 経理課
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部 経理課
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全推進センター
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御センター
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全推進センター
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療記録管理部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全推進センター
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全推進センター
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全推進センター
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全推進センター
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全推進センター 感染制御センター
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全推進センター
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全推進センター
		職員研修の実施状況	庶務課 医療安全推進センター 感染制御センター SDセンター
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全推進センター
		管理者が有する権限に関する状況	庶務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	庶務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	庶務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ○ 2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 窪田 敬一
閲覧担当者氏名	庶務課長 鶴見 好邦
閲覧の求めに応じる場所	事務部
閲覧の手続の概要 ① 閲覧希望者より当院所定の申請書の提出。 ② ①により、病院長までの上申。 ③ ②により、本人確認（身分証明書等の提示）の後に情報開示。	

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医師	延 0 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医療安全管理に関する基本的な考え方 ○組織に関する基本的事項 ○医療安全推進センターの設置に関する基本方針 ○医療安全管理委員会の設置に関する基本方針 ○監査委員会による外部監査に関する基本方針 ○特定機能病院間相互のピアレビューに関する基本方針 ○医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針 ○事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 ○医療事故発生時の対応に関する基本方針 ○高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等の医療提供に関する基本方針 ○患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 ○患者からの相談への対応に関する基本方針 ○その他医療安全の推進のために必要な基本方針 ○本指針の改廃 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（有・無） ・ 開催状況：年 1 2 回 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○医療に係る安全管理のための指針(基本方針)に関すること ○医療安全管理委員会の規程に関すること ○医療安全対策の検討及び研究に関すること ○医療事故の調査・分析及び再発防止策の立案、実施、周知に関すること ○医療安全対策のための職員に対する指示に関すること ○医療安全対策の実施状況の調査、確認に関すること ○医療事故防止のための啓発、教育、広報及び出版に関すること ○監査委員会からの指摘に関すること ○内部通報窓口の設置に関すること ○医療安全に関する診療内容のモニタリングに関すること ○院内巡視（ラウンド）に関すること 	

- 病院長への報告基準（全死亡事例の報告及び一定水準以上の有害事象等の報告）に関すること
- その他医療安全対策に関すること

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

年 8 3 回

・ 研修の内容（すべて）：

○開催日；平成 31 年 4 月 1 日（月）

形態；新規採用者オリエンテーション（医師、看護師、その他医療従事者）

テーマ；「当院での医療安全の取り組みについて」

「当院における個人情報保護について」

講師；医療安全推進センター 医療安全管理部門長 辰元宗人

医療安全推進センター 医療安全管理者 鈴木佳世子

参加者；187名

○開催日；平成 31 年 4 月 3 日（水）

形態；新規採用者オリエンテーション（臨床研修医）

テーマ；「当院での医療安全の取り組みについて」

「当院における個人情報保護について」

講師；医療安全推進センター 医療安全管理部門長 辰元宗人

参加者；50名

○開催日；平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月（2 回／月） 全 24 回

形態；中途／復職者オリエンテーション

テーマ；「当院での医療安全の取り組みについて」

「当院における個人情報保護について」

「薬剤管理について」

「医療機器の取り扱いについて」

講師；医療安全推進センター 医療安全管理者 鈴木佳世子

医療安全推進センター 医療安全管理者 河野由江

医療安全推進センター 医療安全管理者 増淵智美

医療安全推進センター 医療安全管理者 永瀬直

臨床工学部 副技師長 山口剛史

参加者；147名

うち、医師／レジデント 9名

その他医療従事者 138名

○開催日時；令和元年5月15日（水）

形 態；M&Mカンファレンス

担 当 科；整形外科

テ ー マ；「全身麻酔手術後のモニタリングについて」

参 加 者；158名

○開催日時；令和元年5月20日（月）

形 態；講習会（第1回医療安全講習会）

講 師；公立大学法人横浜市立大学附属病院 病院長補佐
安全管理指導者 菊池龍明 先生

テ ー マ；「画像診断報告書確認漏れによる診断遅れ～事例分析と対策～」

※上記講演会のDVD放映会 全12回

開 催 日；令和元年5月29日（水）、30日（木）、31日（金）

※上記講演会のDVD視聴

形 態；医療安全推進センター管理DVD視聴

参 加 者；2160名

○開催日時；令和元年7月29日（月）

形 態；講習会（第2回医療安全講習会）

講 師；帝京大学大学院 公衆衛生学研究科 教授 石川ひろの 先生

テ ー マ；「患者さんに伝わる説明のためのコミュニケーションスキル」

※上記講演会のDVD放映会 全9回

開 催 日；令和元年8月7日（水）、8日（木）、9日（金）

※上記講演会のDVD視聴

形 態；医療安全推進センター管理DVD視聴

参 加 者；966名

○開催日時；令和元年9月2日（月）

形 態；講習会（第3回医療安全講習会）

講 師；獨協医科大学 特任講師 小正裕佳子 先生

テ ー マ；「『安心』のためにできること～震災・原発事故後の福島県
二本松市のアプローチ～」

※上記講演会のDVD放映会 全9回

開催日；令和元年9月10日(火)、11日(水)、13日(金)

※上記講演会のDVD視聴

形態；医療安全推進センター管理DVD視聴

参加者；426名

○開催日時；令和元年9月11日(水)

形態；M&Mカンファレンス

担当科；第二外科

テーマ；「気管切開チューブ交換後呼吸状態の悪化事例」

参加者；102名

○開催日時；令和元年11月11日(月)

形態；講習会(第4回医療安全講習会)

講師；株式会社 高島屋 日本橋店 総務部 顧客グループ
敷田正法 先生

テーマ；「おもてなしの心」

※上記講演会のDVD放映会 全9回

開催日；令和元年11月19日(火)、20日(水)、21日(木)

※上記講演会のDVD視聴

形態；医療安全推進センター管理DVD視聴

参加者；399名

○開催日時；令和元年12月10日(火)

形態；M&Mカンファレンス

担当科；とちぎ子ども医療センター

テーマ；「正しい行動制限の実施について」

参加者；142名

○開催日時；令和2年1月20日(月)

形態；講習会(第5回医療安全講習会)

講師；辰元宗人(医療安全管理部門長)、本田雅巳(医薬品安全管理責任者)、山口剛史(臨床工学部副技師長)、福島篤仁(感染制御センター副センター長)、松浦美和(感染制御センター師長)

テーマ；「医療安全・感染防止対策・医薬品安全合同講習会～外部立入検査等の指摘事項に対する当院の対応状況について～」

※上記講演会のDVD放映会 全9回

開催日；令和2年1月28日(火)、29日(水)、30日(木)

※上記講演会のDVD視聴

形態；医療安全推進センター管理DVD視聴

参加者；1014名

○開催日時；令和2年2月21日(金)

形態；M&Mカンファレンス

担当科；消化器内科

テーマ；「術後の造影CTによってアナフィラキシーショックをきたした事例」

参加者；287名

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

・医療機関内における事故報告等の整備 (有 ・ 無)

・その他の改善のための方策の主な内容：

- 1) 標準化・規則化等の推進
- 2) 定期的な医療安全管理部門広報(ニュースレター)の発行(1回/月)
- 3) 病院幹部、医療安全管理委員会委員による院内ラウンド
- 4) 医療安全講習会の理解度確認のためにe-ラーニングの導入
- 5) 必要に応じたRCA分析、PARM分析の実施

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	①・無												
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>制定 平成 19 年 10 月 1 日 改訂 平成 24 年 1 月18 日 改訂 平成 27 年 10 月 1 日 改訂 平成 30 年 4 月 1 日 改訂 平成 31 年 2 月 1 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ○院内感染防止対策に関する基本的な考え方 ○院内感染防止に関する基本的事項 ○院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針 ○感染事例報告などの医療にかかわる安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 ○施設内感染事例発生時の対応に関する基本方針 ○患者さん等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 ○患者さんからの相談への対応に関する基本方針 ○その他医療安全の推進のために必要な基本方針 													
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回												
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 院内ラウンドの報告 2) 病原体の検出報告（MRSA、緑膿菌、血液培養陽性、薬剤耐性菌、CDの検出状況等） 3) 感染症治療薬使用状況（毎月の抗MRSA薬、カルバペネム系抗菌薬、第4世代セフェム系抗菌薬、抗真菌薬） 4) HIV感染症関連報告 5) ASTからの注意喚起 6) 出感染症等の発生報告 7) その他 <p>開催状況：</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回 2019年4月30日</td> <td>第7回 2019年10月29日</td> </tr> <tr> <td>第2回 2019年5月28日</td> <td>第8回 2019年11月26日</td> </tr> <tr> <td>第3回 2019年6月25日</td> <td>第9回 2019年12月24日</td> </tr> <tr> <td>第4回 2019年7月31日</td> <td>第10回 2020年 1月28日</td> </tr> <tr> <td>第5回 2019年8月27日</td> <td>第11回 2020年 2月25日</td> </tr> <tr> <td>第6回 2019年9月24日</td> <td>第12回 2020年 3月31日</td> </tr> </table>		第1回 2019年4月30日	第7回 2019年10月29日	第2回 2019年5月28日	第8回 2019年11月26日	第3回 2019年6月25日	第9回 2019年12月24日	第4回 2019年7月31日	第10回 2020年 1月28日	第5回 2019年8月27日	第11回 2020年 2月25日	第6回 2019年9月24日	第12回 2020年 3月31日
第1回 2019年4月30日	第7回 2019年10月29日												
第2回 2019年5月28日	第8回 2019年11月26日												
第3回 2019年6月25日	第9回 2019年12月24日												
第4回 2019年7月31日	第10回 2020年 1月28日												
第5回 2019年8月27日	第11回 2020年 2月25日												
第6回 2019年9月24日	第12回 2020年 3月31日												

③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況

年 6 回

・ 研修の内容（すべて）：

○研修医オリエンテーション

日 時： A: 2019年4月4日（木） 15時～17時
B: 2019年4月5日（金） 15時～17時
C: 2019年4月9日（火） 9時～17時

場 所： A・B: 教育医療棟5階シミュレーション室
C: 教育医療棟6階シミュレーション講義室

内 容： 演 習「標準予防策/手指消毒」・「サージカルマスク着脱」・「一般採血/末梢静脈確保」
・「N95マスク着脱」・「血液培養すぐろく」・「血液ガス採取説明・血液ガス採取
演習（安全器材作動確認）」

講 義「感染症診療ポイント」・「臨床微生物検査」・「抗菌薬適正使用」・「抗酸菌検査」
・「職業感染防止」

講 師：感染制御センター：（医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師等）
森永康平（総合診療科医師）／鈴木弘倫（臨床検査技師）、

受講者： 医師：43名、歯科医師：7名 計：50名

○採用者（復帰者）オリエンテーション

開催日：毎月2回

時 間：13時30分 ～ 13時50分

受講者：医師：39名、医師以外：129名、派遣職員：11名 全：179名

○院内感染防止対策講習会（全級職員対象）

第1回 開催日時：令和元年6月17日(月) 17時10分～18時

場 所：関湊記念ホール・臨床医学棟10階講堂

内 容：標準予防策、平成30年度インフルエンザの振り返りと今年度に向けての
対策

講 師：福島篤仁（獨協医科大学病院 感染制御センター・副センター長）

星野三奈（獨協医科大学病院 感染制御センター・看護師）

松浦美和（獨協医科大学病院 感染制御センター・看護師）

参加者：744 名

上記DVD講習会

開催日時：令和元年7月3日(水) 11時30分～12時20分、14時～14時50分
17時～17時50分

令和元年7月5日(金) 11時30分～12時20分、15時～15時50分
18時～18時50分

場 所：臨床医学棟 10 階講堂

参加者：7月3日:417名、7月5日:298名

第2回 開催日時：令和元年7月25日(木) 17時～18時10分

場 所：関湊記念ホール・臨床医学棟 10 階講堂

内 容：職業感染対策（針刺し、結核、4種抗体検査など

講 師：福島篤仁（獨協医科大学病院 感染制御センター・副センター長）

星野三奈（獨協医科大学病院 感染制御センター・看護師）

参加者：515名

上記 DVD 講習会

開催日時：令和元年8月19日(月) 11時30分～12時20分、14時～14時50分
17時～17時50分

令和元年8月21日(水) 11時30分～12時20分、15時～15時50分
18時～18時50分

場 所：臨床医学棟 10 階講堂

参加者：8月19日:256名、8月21日:192名

第3回 開催日時：令和元年9月3日(火) 17時～18時10分

場 所：関湊記念ホール、臨床医学棟 10 階講堂

内 容：PK-PD理論とTDM・アンチバイオグラムの活用法

講 師：星野浩一（獨協医科大学病院 感染制御センター・薬剤師）

樽川友美（獨協医科大学病院 感染制御センター・臨床検査技師）

参加者：305名

上記 DVD 講習会

開催日時：令和元年9月24日(火) 11時30分～12時20分、14時～14時50分、17時～
17時50分

令和元年9月25日(水) 11時30分～12時20分、15時～15時50分、18時～
18時50分

場 所：臨床医学棟 10 階講堂

参加者：9月24日:305名、9月25日:110名

第4回 開催日時：令和元年10月3日(木)

場 所：関湊記念ホール、臨床医学棟10階講堂

内 容：日常の診療でも役に立つ、小児科医の視点からの感染症診療・抗菌薬の考え方

講 師：福島啓太郎（獨協医科大学病院 小児科学・講師）

参加者：221名

上記DVD講習会

開催日時：令和元年10月21日(水) 11時30分～12時20分、14時～14時50分、17時～
17時50分

令和元年10月23日(金) 11時30分～12時20分、15時～15時50分、18時～
18時50分

場 所：臨床医学棟10階講堂

参加者：10月21日:140名、10月23日:122名

第5回 開催日時：令和元年11月13日(水) 17時～18時10分

場 所：関湊記念ホール、臨床医学棟10階講堂

内 容：HIV感染症の治療とケア update2019

講 師：池田和子（国立国際医療研究センター病院 エイズ治療・研究開発セ
ンター）

参加者：169名

上記DVD講習会

開催日時：令和元年11月26日(火) 11時30分～12時20分、14時～14時50分、17時～
17時50分

令和元年11月28日(木) 11時30分～12時20分、15時～15時50分、18時～
18時50分

場 所：臨床医学棟10階講堂

参加者：11月26日:143名、11月28日:192名：143名

第6回 開催日時：令和2年1月20日(月) 17時10分～18時10分

場 所：関湊記念ホール、臨床医学棟 10 階講堂、300 番教室
内 容：外部立入検査等の指摘事項に対する当院の対応状況について
講 師：1) 医療安全関係 医療安全管理部門 辰元宗人 部門長
2) 医薬品関係 薬剤部 本田雅巳 部長
3) 医療機器関係 臨床工学部 山口剛史 主任
4) 感染防止対策関係 感染制御センター 福島篤仁 副センター長、
松浦美和 看護師長

参加者：484 名

上記 DVD 講習会

開催日時：1 月 28 日(火)、29 日(水)、30 日(木) 11 時：30 分～12 時：30 分 (食事可能)、
14 時：30 分～15 時：30 分、16 時：00 分～17 時：00 分

場 所：臨床医学棟 10 階講堂

参加者：557 名

令和元年度 感染防止対策講習会 DVD 貸出 視聴者：719 名

○委託業者対象講習会

対象部署：パラテクノ (株)

開催日時：令和元年 9 月 19 日(木) 11:00～11:30

場 所：教育医療棟 10 階 1017 号室

内 容：病院で勤務する皆様へ

講 師：星野 三奈 (感染制御センター専従・感染症看護専門看護師・感染
管理認定看護師)

松浦 美和 (感染制御センター専従・感染制御実践看護師)

参加者：12 名

対象部署：SPD・売店・警備等

開催日時：10 月下旬～11 月 7 日間 10:30～、15:00～ (各 30 分間)

場 所：教育医療棟 6 階 シミュレーション講義室

内 容：全職員で一致団結して抜げない・うつさない・持ち込まない対策を

講 師：星野 三奈（感染制御センター専従・感染症看護専門看護師・感染管理認定看護師）

松浦美和、畠山享美（感染制御センター・感染制御実践看護師）

対象部署：清掃・リネン

開催日時：11月～12月上旬 10日間 10:30～、14:30～、15:00～、16:30～（各30分間）

場 所：地下1F、関湊記念ホール

内 容：つけない・ひろげない・うつさない・刺さない

講 師：星野 三奈（感染制御センター専従・感染症看護専門看護師・感染管理認定看護師）

松浦美和、畠山享美（感染制御センター・感染制御実践看護師）

対象部署：栄養部

開催日時：11月 9日間 12:15～、16:00～（各15分）

場 所：栄養部休憩室

内 容：栄養部における感染対策

講 師：星野 三奈（感染制御センター専従・感染症看護専門看護師・感染管理認定看護師）

松浦美和、畠山享美（感染制御センター・感染制御実践看護師）

全参加者：397名

○放射線部勉強会

開催日時：令和元年9月24日(火) 9:30～10:30

対 象 者：臨床実習学生

場 所：放射線部前会議室

内 容：放射線部臨床実習における感染対策について

講 師：星野三奈（感染制御センター・感染管理認定看護師/感染症看護専門看護師）

参 加 者：7名

開催日時：令和元年 12 月 5 日(木) 17:15～17:45

対 象 者：放射線部技師・看護師

場 所：教育医療棟 6 階シミュレーション講義室

内 容：感染防止対策勉強会

講 師：師：松浦美和（感染制御センター・感染制御実践看護師）

参 加 者：35 名

○看護部勉強会（看護部学生アルバイトオリエンテーション）

開催日時：令和元年 7 月 24 日(水)、7 月 27 日(土)

対 象 者：看護部学生アルバイト

場 所：看護部研修室

内 容：病院でアルバイトする方へのお願い

講 師：講師：星野三奈（感染制御センター・感染管理認定看護師/感染症看護専門看護師）

山崎晃代（感染制御センター・感染制御実践看護師）

参 加 者：7 月 24 日：31 名、7 月 27 日：9 名

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有) ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

感染症起因菌検出時に臨床検査センターから主治医および感染制御センターへ、その都度報告される。その感染症の届出を要するものについて、速やかに提出されない場合、感染制御センターから主治医へ届出提出を促している。

感染症管理支援ライブラリーにより電子カルテ上で患者の菌検出情報、抗菌薬使用状況等を把握し感染症の患者情報が迅速に得られ、医師、看護師の感染対策が早期に開始されている。また、入院患者および職員の感染症罹患情報を「健康観察把握票」に記載し、随時感染制御センターへ提出することになっている。

感染制御センターでは「健康観察把握票」をもとに感染対策状況を確認し、指導している。感染症届出の手順について、全ての職員に配付している「医療安全管理マニュアル（ポケット版）」に明記している。

職員対して周知・伝達が必要な情報等は ICT ニュース等により情報提供をしている。また、平成 31 年 3 月から学内専用ホームページを開設して①院内感染防止対策マニュアル、②感染防止講習会日程表、③ ICT ニュース並びに抗菌薬適正使用支援チーム (AST) からの注意喚起を掲載し情報提供している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	○・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年47回
<p>・ 研修の主な内容： 対象医療機器①人工心肺装置及び補助循環装置②人工呼吸器③血液浄化装置④除細動装置⑤閉鎖式保育器⑥診療用高エネルギー放射線発生装置⑦診療用放射線照射装置の各医療機器において年間2回以上の研修会を実施した。当該医療機器の使用に携わる医療従事者を名簿により把握し、研修会への参加を促した。研修内容は当該医療機器を主に使用する当院職員（看護師・臨床工学技士）による講習会や製造販売業者による取扱説明なども実施した。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (○・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 保守点検計画策定対象機器は①人工心肺装置及び補助循環装置②人工呼吸器③血液浄化装置④除細動装置⑤閉鎖式保育器⑥CTX線装置⑦診療用高エネルギー放射線発生装置⑧診療用放射線照射装置で特に臨床工学技士に係る医療機器については医療機器管理システムにて日常点検をはじめ、定期点検の管理を行っている。またその他の院内で多く使用する輸液・シリンジ・経腸輸液ポンプに関してもME機器管理室にて中央管理し医療機器管理システムにて日常点検・定期点検の管理を行っている。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (○・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： 機器名：KXL System 治療名：角膜クロスリンク 使用事例：エキシマレーザーによる角膜屈折矯正手術にて過度に角膜を切除し角膜形状変化を予防するために使用する。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： ME機器管理室にて管理している医療機器については、添付文書及び簡易マニュアル、点検実施手順書等は医療機器管理システムにて管理し、各職員が院内の電子カルテから閲覧可能とした。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	④・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>病院長から任命を受けた副院長（医療安全担当）が医療安全管理責任者、医療安全推進センター長、医療安全管理委員会委員長を務め、医療安全推進センターを兼務する医薬品安全管理責任者、及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	④（9名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>情報の整理：DI業務として医薬品情報担当者を配置し実施。</p> <p>情報の周知：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子カルテ上に「薬剤部」のページを作り、その情報を更新。 （厚労省関連情報、医薬品情報、薬剤部関連情報、PMDA関連情報等） また、医薬品関連情報を各部署に配布し、イエローレター、ブルーレター、DIニュース、緊急情報、行政からの周知文書等のについては、内容確認印を押印し記録としている。 ・緊急性の高い緊急安全性情報、安全性情報については情報入手後、前記2ルート（メール配信、書面での送付）と共に、電子カルテ薬剤部ページへの掲載。並びに、過去3か月に遡り対象医薬品を処方した医師を抽出し個々の医師宛て書面にて注意喚起を行う。 ・医薬品・医療機器等安全性情報に掲載された「重要な副作用等に関する情報」についても同様に過去3か月に遡り、対象医薬品を処方した医師を抽出し個々の医師宛て書面にて注意喚起を行う。また、薬事委員会の席でも報告事項として案内する。 ・医薬品の回収命令についても前記同様な対応を実施。 ・メーカーによる不良品・事故品の回収情報は、医療安全管理責任者（医療安全推進センター）を通じて病院長へ報告 <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未承認新規医薬品評価委員会の開催。 ・モニタリング <p>初回（1症例目）実施時及びその後定期的（6ヶ月毎）に承認後の実施状況報告を求め、病院長に報告。</p>	

・委員会が審査を行った申請に関する審査資料の保管。

・担当者の指名の有無 () ・無

・担当者の所属・職種：

(所属：新規医療技術等管理部門 職種：医師) 3名

(所属：新規医療技術等管理部門 職種：薬剤師) 3名

(所属：新規医療技術等管理部門 職種：看護師) 3名

(所属：新規医療技術等管理部門 職種：臨床工学技士) 1名

(所属：新規医療技術等管理部門 職種：事務) 4名

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

() ・無

・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 () ・無

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：平成28年9月1日付けでインフォームド・コンセント責任者（以下、「責任者」という。）、各部門等にインフォームド・コンセント担当者を配置した。また、平成31年1月1日付けで責任者が委員長を務めるインフォームド・コンセント委員会（以下、「IC委員会」という。）を設置し、各診療科等が作成するインフォームド・コンセントに必要な説明書、同意書、説明用補助資料の内容が、病院が定める所定様式、又は説明に必須となる事項等の基準を満たしているかなど、一元的に審査・管理する体制を構築した。IC委員会では、承認後の説明・同意の状況について、当院が規定する手順に沿って適切な説明が行われているかの遵守状況を電子カルテ上で2ヶ月毎にモニタリングし、適切でない事例が認められた場合は当事者に対して必要な指導を行うとともに、ケースに応じて院内通知又は研修会等で取り扱うなど、周知・徹底に努めている。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

() ・無

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

①診療録等の記載内容（質的監査・量的監査）の確認を定期的に行い、診療記録管理委員会で点検結果を報告するとともに、記載内容が十分でない事例が認められた場合は、各部署に周知し改善要請を行う。

②退院サマリーの作成状況の把握と早期作成の推進。

③文書の適切なスキャニング及び当該文書の取扱状況（量）の把握。

④紙の診療録等の管理・また適切な保管スペースの確保。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（11）名、専任（1）名、兼任（6）名 うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（3）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名 うち看護師：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>(注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○インシデント・アクシデント・死亡・院内急変情報の収集、分析と改善案の立案に関する事 ○改善策の依頼、助言、実施及び評価に関する事 ○医療事故防止対策マニュアルに関する事 ○職員の医療安全管理に対する意識の向上や指導等に関する事 ○発生した医療事故への対応に関する事 ○医療安全推進のために必要な施策等の調査及び研究に関する事 ○日本医療機能評価機構並びに県内の医療機関と県南健康福祉センター・厚生労働省関東信越厚生局指導監査部門。医療監視との情報交換 ○医療事故等に関する患者及び家族への対応 ○定期的に院内を巡回し、各部門における医療安全対策の状況を把握、分析し、具体的対策を推進すること ○その他医療安全管理に関する事 <p>毎朝、インシデント報告分析支援システムを確認し、不備があればリスクマネージャーに差し戻し、場合によっては電話で状況を確認している。また、状況に応じて事例に関するカンファレンスにも出席して、インシデント防止に努めている。</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（13件）、及び許可件数（13件）</p> <p>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）</p> <p>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○申請書の受付／申請書の不備確認 	

- 評価委員会の開催通知／審査結果通知等の発送
- 承認後のモニタリング
- 審査資料等の保管（申請書／実施計画書／議事録／遵守状況の確認記録等）
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有 ・ 無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（19件）、及び許可件数（19件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：
 - 申請書の受付／申請書の不備確認
 - 評価委員会の開催通知／審査結果通知等の発送
 - 承認後のモニタリング
 - 審査資料等の保管（申請書／実施計画書／議事録／遵守状況の確認記録等）
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ 有 ・ 無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年736件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年219件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - 《所掌業務》
 - 医療安全対策の検討及び研究に関すること
 - 医療事故の分析及び再発防止策の検討に関すること
 - 医療安全対策のための職員に対する指示に関すること
 - 医療安全対策のために行う提言に関すること
 - 医療事故発生防止のための啓発、教育、広報及び出版に関すること

○その他医療安全対策に関すること

《具体的業務》

○インシデント・アクシデント報告書及び問題（又は問題となりうる）事例届を収集し、事例ごとに分類し、さらに発生要因の分析を行い、事故の防止策を検討する。

○検討を行った医療安全対策を病院長に報告するとともに、職員に周知し、安全策の具体的方策の指示を行う。

○医療安全対策のための教育及び研修を行う。

○医療事故安全対策のためのマニュアルを作成する。

○インシデント・アクシデントの報告は、原因分析から安全対策作成のための大きな教訓となることから、これらの情報収集が重要となるが、報告者が不利益を被らないよう配慮する。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：聖マリアンナ医科大学病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：聖マリアンナ医科大学病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況

【指摘事項】

1. DNAR に関して、口頭の同意だけではなく文書や倫理カンファレンスなどの記録を残すことのご検討をお願いいたします。
2. 医療安全推進センターに、画像に関連した兼務の方を配置することのご検討をお願いいたします。
3. 異常データにおける緊急報告の連絡方法と記録フロー図において、「当該科の医師（当直医）が不在の場合、最後はリーダー看護師」となっていますが、確実に医師に伝達する仕組みを構築することのご検討をお願いいたします。

【対応状況】

1. 現在、患者から取得した DNAR 情報は、電子カルテ上の DNAR アイコンにより、医療従事者が容易に記載・閲覧できる環境を整備しているが、今後は文書による同意書の取得およびカンファレンス記録を電子カルテへ残せるように、病院独自の雛形を作成し生命倫理委員会やIC委員会等の承認のもとに運用を開始する方針としている。
2. 令和2年4月1日付で医療放射線安全管理責任者を配置したことに加え、新たに診療放射線技師を医療安全推進センターへ兼務配置した。
3. 異常データにおける緊急報告の連絡方法（フロー図）に関して、確実に医師に伝達できるよう連絡体制を見直し、医療事故防止対策マニュアルへ収載のうえ教職員への周知・徹底を図った。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

病院1階の地域連携・患者サポートセンター医療福祉相談部門内に“患者相談窓口”を設置し、専従の医療ソーシャルワーカーを配置している。患者からの相談内容に応じて、医療安全管理を担う「医療安全推進センター」との連携体制を構築している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

上記「規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置」内「③医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況」のとおり

(注) 前年度の実績を記載すること(⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

○研修会名；2019年度特定機能病院管理者研修事業
研修日程；令和元年10月27日(日)、28日(月)
受講者；管理者(病院長)

○研修会名；2019年度特定機能病院管理者研修事業
研修日程；令和2年2月12日(水)

受講者；医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者

(注) 前年度の実績を記載すること(⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> 基準の主な内容 <p>臨床医学の講座主任教授</p> <p>医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者</p> <p>病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者</p> 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無) 公表の方法 <p>規程集に掲載している。</p>

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="radio"/> ・ 無			
<ul style="list-style-type: none"> 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無) 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無) 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無) 公表の方法 : https://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/hospital/advanced-treatment/ 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の 関係
吉田謙一郎	学長	○	学長 (規程第7条第1号)	<input checked="" type="radio"/> ・ 無
増田 道明	副学長		副学長 (規程第7条第2号)	<input checked="" type="radio"/> ・ 無
平田 幸一	大学病院長		大学病院長 (規程第7条第3号)	<input checked="" type="radio"/> ・ 無
岡田 弘	埼玉医療センター 病院長		埼玉医療センター病院長 (規程第 7条第4号)	<input checked="" type="radio"/> ・ 無
安 隆則	日光医療センター 病院長		日光医療センター病院長 (規程第 7条第5号)	<input checked="" type="radio"/> ・ 無
若松昭豊	事務局長		事務局長 (規程第7条第6号)	<input checked="" type="radio"/> ・ 無
麻生好正	内科学 (内分泌 代謝講座主任教授		医学部教授会から選出された臨 床医学講座の主任教	<input checked="" type="radio"/> ・ 無
窪田敬一	第二外科学 講座主任教授		授 (規程第7条第7号)	<input checked="" type="radio"/> ・ 無

千田雅之	呼吸器外科学 講座主任教授			有・無
太田照男	栃木県医師会長		学長が委嘱する学外有識者（規程 第7条第8号）	有・無
海老名英治	栃木県保健福祉部 保健医療監		学長が委嘱する学外有識者（規程 第7条第8号）	有・無

規則第9条の2 3第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無	①・無
<p>・合議体の主要な審議内容 病院の管理運営に関する重要事項を審議するため、病院運営委員会を設置し、以下の事項を審議している。</p> <p>(1) 病院の経営に関する事項 (2) 病院の運営に関する事項 (3) 病院の将来計画に関する事項 (4) 病院の診療体制に関する事項 (5) その他診療に関する事項</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>毎月、診療部長会・病院連絡会を開催し、概要を報告している。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無 (①・無)</p> <p>・公表の方法</p> <p>規程集に掲載している。</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無 (有・②)</p>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
吉田 謙一郎		医師	学長
平田 幸一		医師	副学長
若松 昭豊		事務	事務局長
窪田 敬一	○	医師	病院長
麻生 好正		医師	副院長
吉原 重美		医師	副院長
種市 洋		医師	副院長
釜井 隆男		医師	副院長
本田 雅巳		薬剤	薬剤部長
秋元 ますえ		看護	看護部長
坂本 悦男		事務	事務部長
佐山 静江		看護	学長補佐

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（・無）
- ・ 公表の方法

規程集に掲載している。

- ・ 規程の主な内容

獨協医科大学病院規程第2条第3項：病院の管理運営をつかさどり、所属職員を統括する。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

副院長：医療安全推進、院内感染防止対策、医療物資管理、経営対策

院長補佐：研修医対応、医療連携、病床管理

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

管理職研修会を毎年開催し、本学の方針に則った共通認識のもと人材育成を図っている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年2回 ・ 活動の主な内容： 大学病院内における医療安全管理業務の執行状況を監査している。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無) ・ 委員名簿の公表の有無 ((有)・無) ・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無) ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無) ・ 公表の方法： ホームページにより公開 (https://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/hospital/audit/) 	

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
十川 康広	上都賀総合病院 病院長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・(無)	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者 その他の学識経験を有する者
菊池 不佐男	菊池法律事務所 弁護士		法律に関する識見を有する者	有・(無)	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者 その他の学識経験を有する者
飯島 一彦	下野新聞社 専務取締役		医療を受ける者の代表者	有・(無)	医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
美津島 隆	獨協医科大学 リハビリテーション科学 教授		医療に関する学識経験者	(有)・無	その他
久保田 一徳	獨協医科大学病院 放射線部教授		医療に関する学識経験者	(有)・無	その他

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

学園内部監査室による監査の他、定期的な監事監査を実施している。

・ 専門部署の設置の有無 (有) ・ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (有) ・ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (有) ・ 無)

・ 公表の方法

規程集に掲載している。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 理事会にて管理運営状況を監督している。 ・ 会議体の実施状況（ 年 7 回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 ）（ 年 7 回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 規程集に掲載している。 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 通報件数 (年 0 件)
- ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (有 ・ 無)
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (有 ・ 無)
- ・ 周知の方法
医療事故防止対策マニュアルへの記載。

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	① 有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 公益財団法人 日本医療機能評価機構 訪問審査受審（一般病院3）：平成30年9月20日（木）～22日（土）の3日間 認定期間：2018年11月17日～2023年11月16日（認定JC71-4号）	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	① 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 栃木県保健医療計画（7期計画）に基づき、がんの医療、脳卒中の医療、心筋梗塞の医療、糖尿病の医療、救急医療、災害医療、周産期医療及び小児医療を主に地域における当院の役割と基本方針に定め、啓発ポスターの院内掲示やHP、ラジオ等での情報発信をはじめ、他の医療機関関係者並びに地域住民に対して研修会やセミナーを開催している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	① 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ハートセンターなど、心臓・血管疾患診療に携わる当院3診療科（心臓・血管内科、循環器・腎臓内科、心臓・血管外科）の医師が、医療従事者とともに各診療科の枠組みを超え、一致協力して診療を行っており、これまで以上に急性期医療から心臓リハビリテーションに至るまで、質の高い医療を多くの患者様に提供しているほか、近年では糖尿病センター、ロボット手術支援センター及びアレルギーセンターを設置するなど、中央部門に23センターを整備し各診療科が密接な連携を取り、患者さまにより分かりやすく安全な医療を提供するため、積極的なセンター化に取り組んでいる。	